

株式会社チー

(東証プライム:6850)



2023年3月期
会社・決算説明資料

目次

➤ 1. チノーグループの概要	P 2
➤ 2. 事業の概要	P 8
➤ 3. チノーの強み	P14
➤ 4. ソリューション事例	P19
➤ 5. 決算概要	P30
➤ 6. 今後の方向性	P38
➤ 7. トピックス	P43
➤ 8. 株主還元等	P49
➤ Appendix	P55

》 1. チノーグループの概要

CHINO



会社概要

会社名	株式会社チノー CHINO CORPORATION
本社	東京都板橋区熊野町32-8
代表者	代表取締役 社長執行役員 豊田三喜男
事業内容	計測制御機器の製造・販売、計装工事
会社設立	1936年8月1日
株式	東京証券取引所 プライム市場
従業員数	連結：1,101名 単体：687名（2023年3月末現在）
グループ会社	12社（国内 6社、海外 6社）

当社の生産拠点・販売拠点 国内グループ会社

生産拠点 (3拠点)

藤岡事業所 久喜事業所 山形事業所

販売拠点 (3支店<16営業所>)

東日本支店 (8営業所・1出張所)
大阪支店 (5営業所・1分室)
名古屋支店 (3営業所)

国内グループ会社 (6社)

- ・ 株式会社チノーソフテックス
- ・ アーズ株式会社
- ・ 三基計装株式会社
- ・ アドバンス理工株式会社
- ・ 株式会社浅川レンズ製作所
- ・ 明陽電機株式会社

海外グループ会社

当社はグローバル展開を最重要課題の一つとして取り組んでいます。
顧客密着で現地ニーズに基づく製品を開発・生産して販売する“地産地消”を
推進しています。

海外拠点数

6 拠点
(5か国)

千野測控設備（昆山）有限公司

韓国チノ一株式会社

CHINO Works America Inc.

上海大華－千野儀表有限公司

CHINO Corporation India Private Limited

CHINO Corporation (Thailand)Limited

沿革

1913

創業

(株)千野製作所
設立

1936

東証
市場第2部上場

1962

藤岡事業所
竣工

1963

久喜事業所
竣工

1978

東証
市場第1部へ
指定替え

1979

創立50周年を機
に(株)チノーに
社名変更

1986

本社・研究所
新社屋竣工、移転

1990

(株)山形チノー
(現 山形事業所)
設立

1992

藤岡事業所に生物
多様性保全をめざし
ビオトープ造成

2010

創立80周年

2016

明陽電機の子会社化

2020

東証
プライム市場
へ移行

2022



創業者 千野一雄



千野製作所



チノー本社

企業理念

計測・制御・監視技術の限界に挑戦し、
産業の発展とより良い明日の社会の実現に貢献する

創立90周年(2026年)に向けた経営ビジョン



共創

環境の変化を捉えながらステークホルダーと共に新しい価値を創造します

特長

卓越した技術によるループソリューションでお客様に感動をお届けします

信頼

信頼の“絆”を強め 情熱とチームワークで未来に向かって成長し続けます

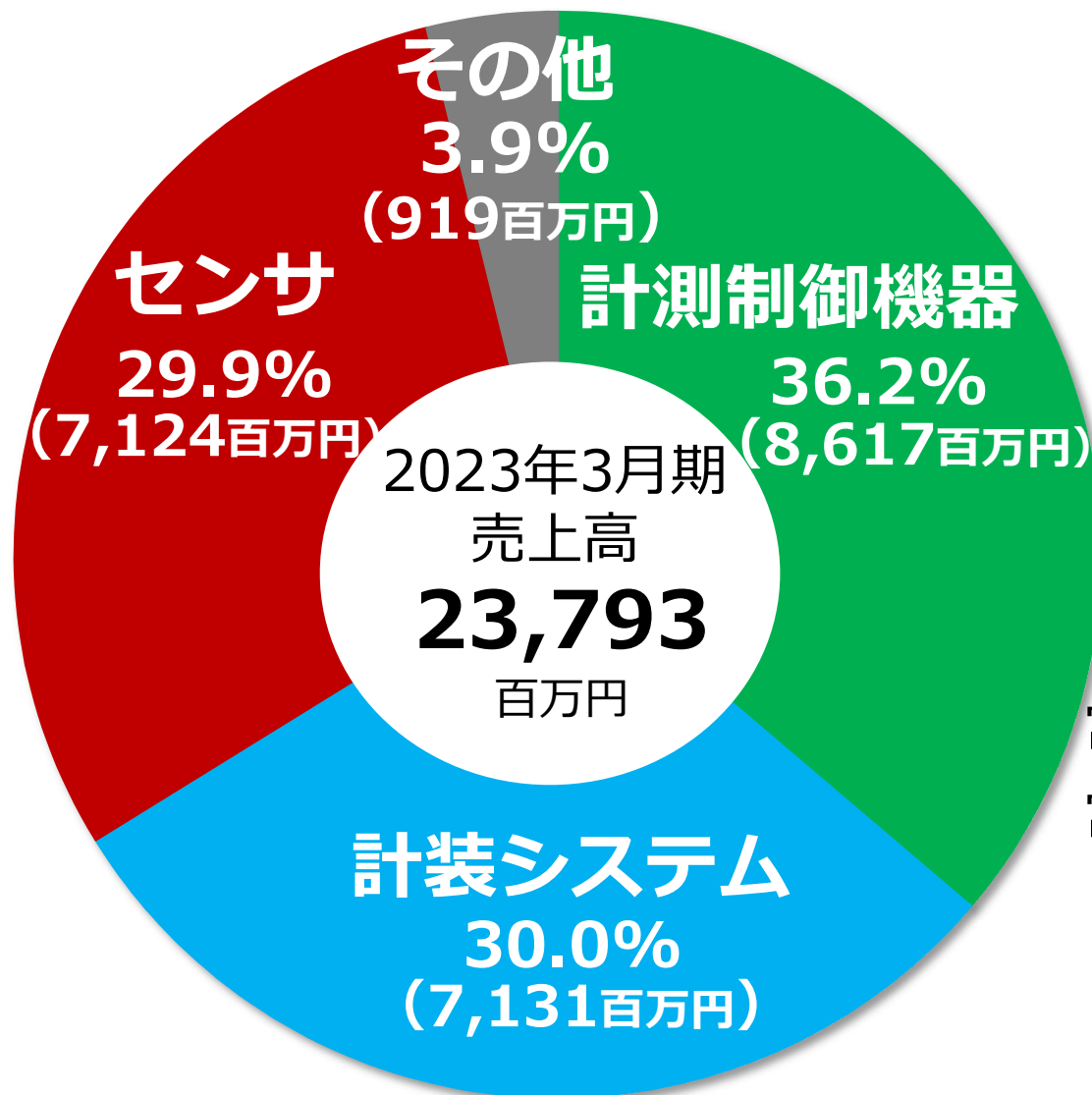
➤ 2. 事業の概要

CHINO



事業ポートフォリオ

当社グループのセグメントは「計測制御機器」、「計装システム」、「センサ」の3つのセグメントから構成されています。



営業利益 : 2,018百万円

営業利益率: 8.5%

<計測制御機器>

主な製品

記録計

調節計

サイリスタレギュレータ
(電力調整器)

ロガー

記録計



温度を記録する

調節計



温度を制御する

サイリスタレギュレータ
(電力調整器)



電力を調整する

無線ロガー



温湿度を計測・管理する

<計装システム>

主な製品

評価試験

性能・耐久試験

集録・監視パッケージシステム
(CISAS/V4)

燃料電池 評価試験装置



燃料電池自動車等が効率よく電気を起こしているかを評価する装置

水電解評価装置



水を水素と酸素に電気分解して、効率よく水素を取り出せるかを評価する装置

コンプレッサ 性能試験装置



エアコン<自動車・家電>のコンプレッサ性能・耐久試験装置

集録・監視パッケージ システム (CISAS/V4)



各種装置・設備などのデータをパソコンで集録・監視を行うシステム

<センサ>

主な製品

温度

湿度

成分・水分・厚さ計測

温度校正

高温用シース
熱電対



放射温度計



熱画像計測装置



赤外線多成分計



温度校正装置



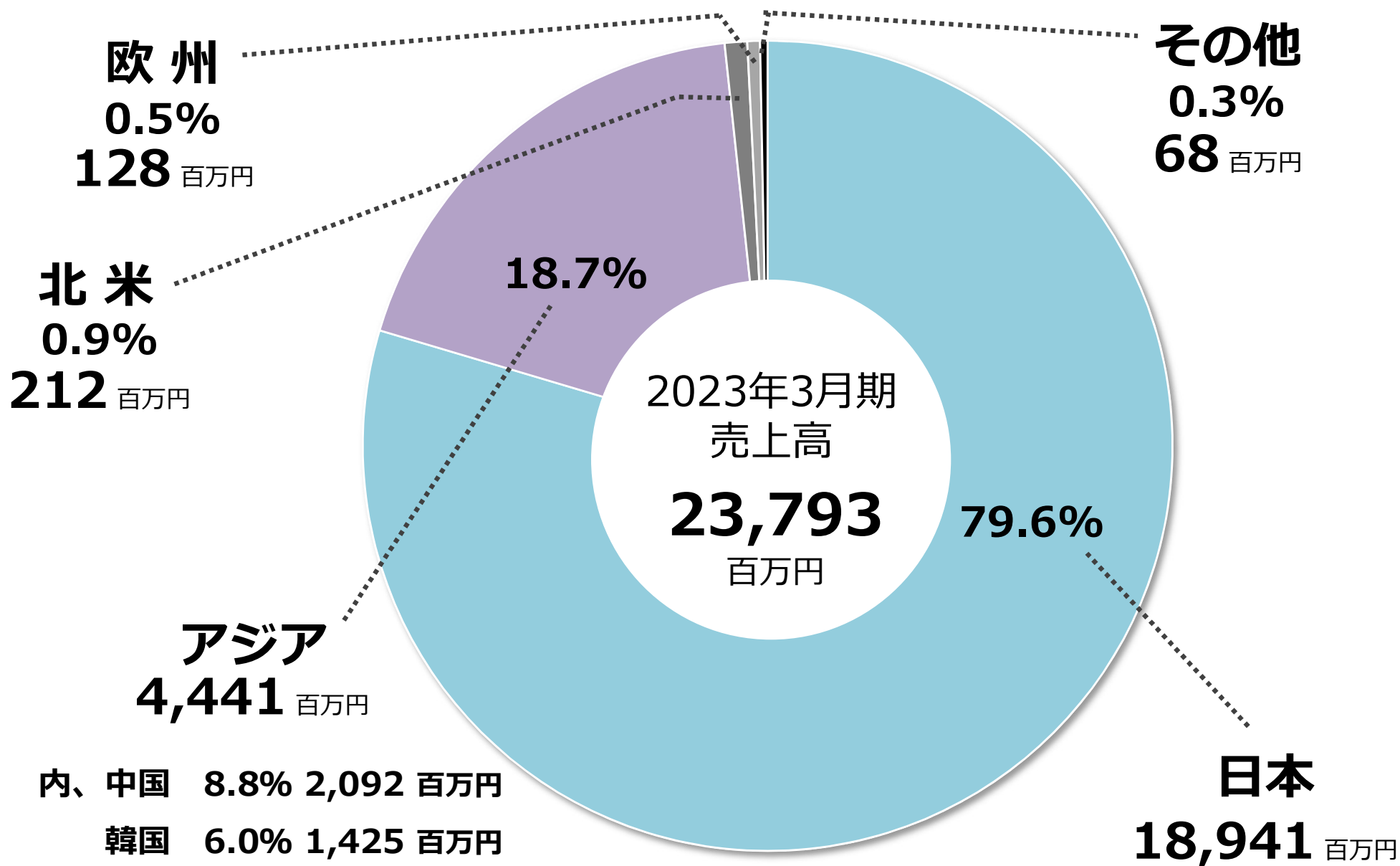
接触形温度センサ

赤外線技術を応用
した**非接触形**温度
センサ

赤外線技術による
計測器<水分・
フィルム厚さ・塗
工厚さ>

温度センサの温度
誤差を点検する装
置

地域別売上高



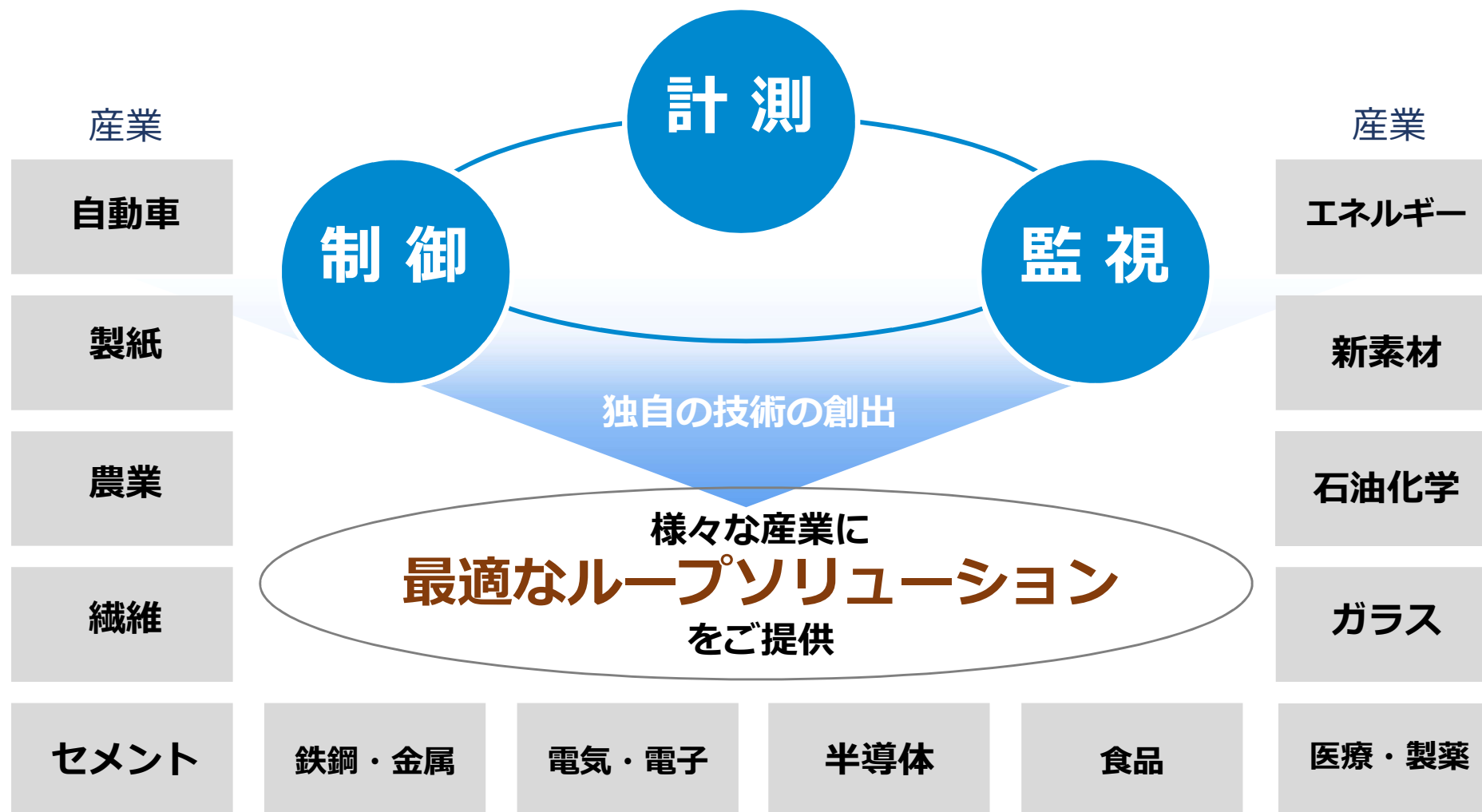
➤ 3. チノーの強み

CHINO



事業の特長 ループソリューションによる顧客価値の創造

「温度のチノー」として、温度を軸として長年培ってきた
①計測の技術 ②制御の技術 ③監視の技術

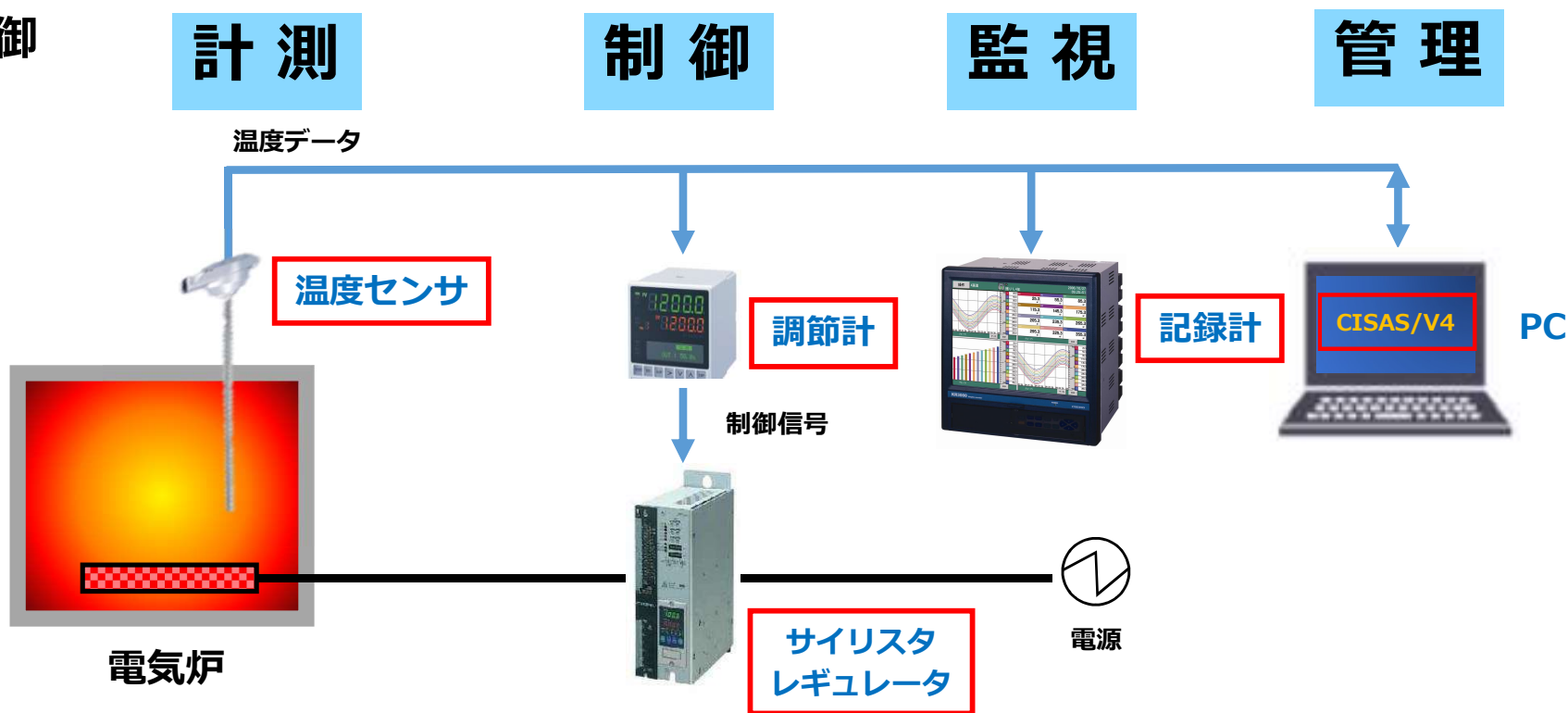


ループソリューションとは

当社は、計測・制御・監視の機器を研究・開発・製造しており、温度を入口から出口まで管理する製品を揃えています。

また、お客様の様々なニーズに合わせて、それぞれの製品を組み合わせた**温度ループソリューション**（計測・制御・監視の一元管理）を**ワンストップ**で提供しています。これは**他社にはない当社の特長**になります。

電気炉の温度制御



 : 当社製品

世界22か国の国家標準機関が採用

お客様のセンサや自社生産したセンサの温度の誤差を把握する（校正）事業を行っています。また、当社は国に認められたJCSS（計量法事業者登録制度）の登録事業者として、**国が発行する証明書と同等の効力**を持った証明書を発行することができます。

標準温度センサ

（「温度誤差把握の基準」となる温度センサ）



株式会社チノ標準技術部は、認定基準として ISO/IEC17025 を用い、認定スキームを ISO/IEC17011 に従って運営されている JCSS（計量法校正事業者登録制度）の下で認定されています。JCSS の認定機関である IAJapan は、アジア太平洋認定協力機構（APAC）及び国際試験所認定協力機構（ILAC）の相互承認に署名しています。0024 は当社標準技術部の登録番号です。



標準白金測温抵抗体／熱電対



標準用放射温度計

温度ループ ソリューション

お客様のニーズに最適な
温度ループソリューション
(計測・制御・監視の一元管理)
をワンストップ提供

世界22か国で 標準温度センサ として採用

JCSS登録事業者として
証明書(国が発行する証明書
と同等)を発行可能

極低温から超高温 までの温度測定

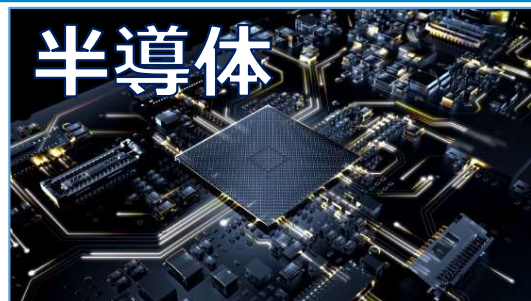
-270℃から3,500℃
までの温度を計測
※放射温度計のトップメーカー

➤ 4. ソリューション事例

CHINO



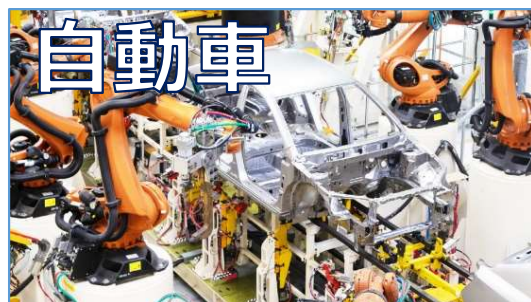
産業別ソリューション



半導体製造プロセスにおける高温・高速の温度計測・制御ノウハウで半導体の品質向上に貢献。



赤外線を利用した温度計測・監視技術で鋼材の品質向上や製造設備の安全確保に貢献。



部品製造工程の温度管理、エアコン用コンプレッサの性能評価を通じ、安全で環境に配慮した生産に貢献。



医薬品保管庫の温度計測・監視を通じ、正確性とトレーサビリティが求められる医薬品の提供に貢献。



製造から流通までの各プロセスの温度を正確に計測・記録し、食品の安全・安心に貢献。



園芸施設の温湿度など環境データを計測・可視化し、作物の計画生産と品質向上に貢献。



太陽電池製造プロセスの温度管理や、燃料電池の性能評価を通じ、持続的な社会の発展に貢献。



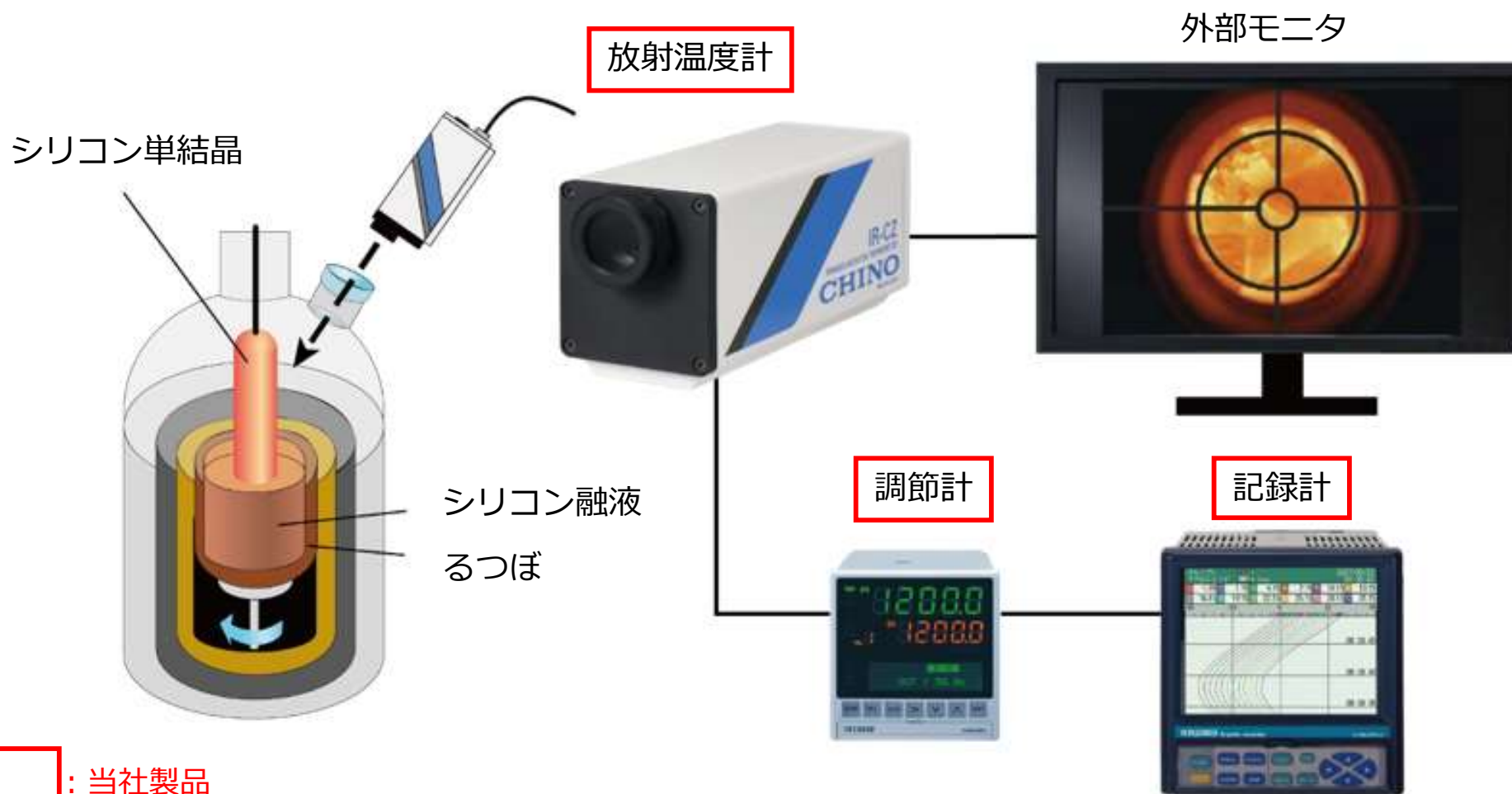
温度計測・制御技術で、軽さと強さの両立が求められる航空機の新素材の品質向上に貢献。



製造ラインにおける温度計測を通じ、透明度・強度の高いガラスづくりに貢献。

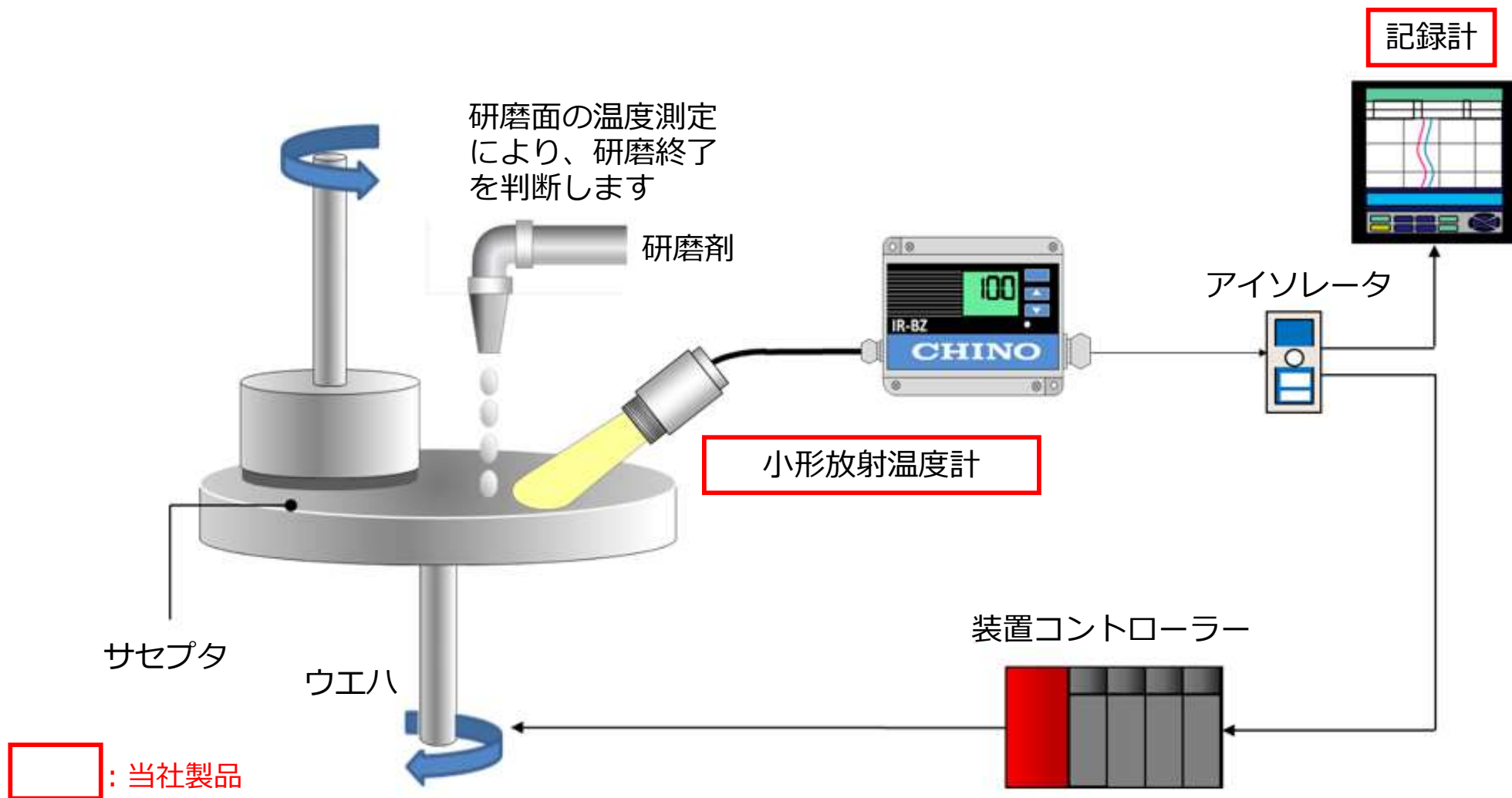
半導体関連（製造プロセスの温度管理）①

厳密な温度制御を要する超高純度単結晶シリコンの製造において、**当社の「計測・制御・監視」技術**が貢献しています。



半導体関連（製造プロセスの温度管理）②

半導体デバイスの土台である、シリコンウェハの研磨工程においても**当社の温度計測技術**が貢献しています。

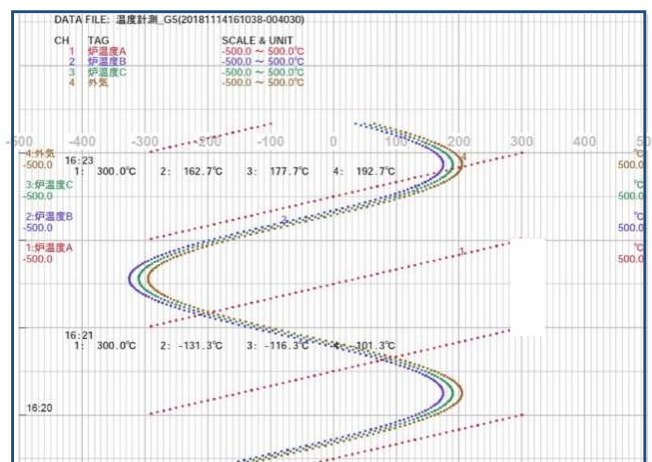


航空機・自動車関連（金属熱処理温度管理）

人命に直結する航空機部品や自動車部品の熱処理工程においては、**高度な規格への対応**が要求されており、当社はその対応を支援しています。



記録計



AMS2750F

航空宇宙産業における特殊工程（溶接・熱処理など）の規格。

IATF 16949/CQI-9

自動車部品メーカーに対する熱処理工程評価の規格。

 : 当社製品

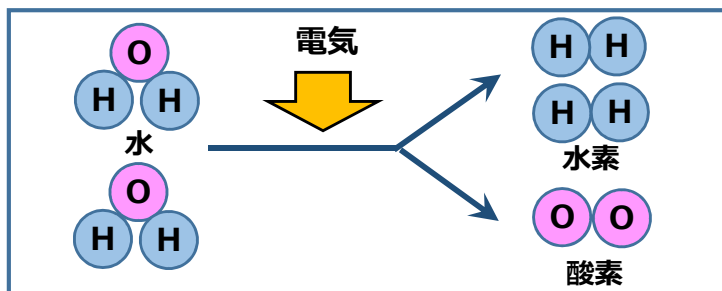


水素関連①（水素を「作る」・「使う」）

水素を「作る」・「使う」システムの評価装置を提供しています。

◆ 水電解評価装置

水素を「作る」：水の電気分解



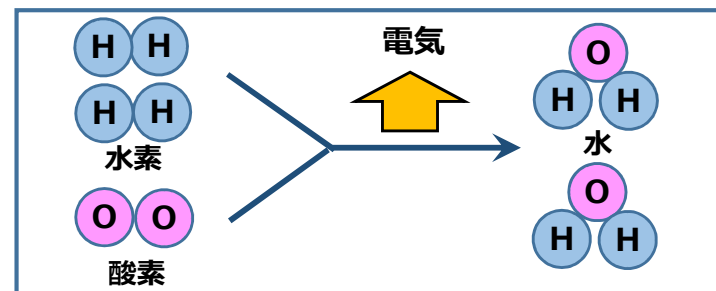
- ✓ 水を水素と酸素に電気分解して、効率よく水素を取り出せるかを評価する装置



 : 当社製品

◆ 燃料電池評価試験装置

水素を「使う」：燃料電池

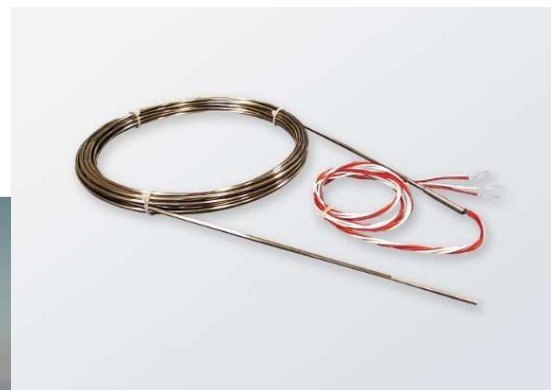


- ✓ 燃料電池自動車等が効率よく電気を起こしているかを評価する装置
- ✓ 1995年から顧客の研究開発用に販売し、**30年近いノウハウの積がある（業界標準の地位を確保）**



水素関連②（水素を「運ぶ」）

当社グループ（明陽電機(株)）のセンサ技術により、**液体水素（ -253°C ）**を揺れが多い海上輸送において**正確に温度管理**することができます。



液体水素用测温抵抗体

概要

- ・液体水素輸送船向け超低温温度センサー
- ・長時間大きな揺れが続く海上でも、 -253°C の温度を正確に計測
- ・海外から水素を日本に運搬する船に搭載

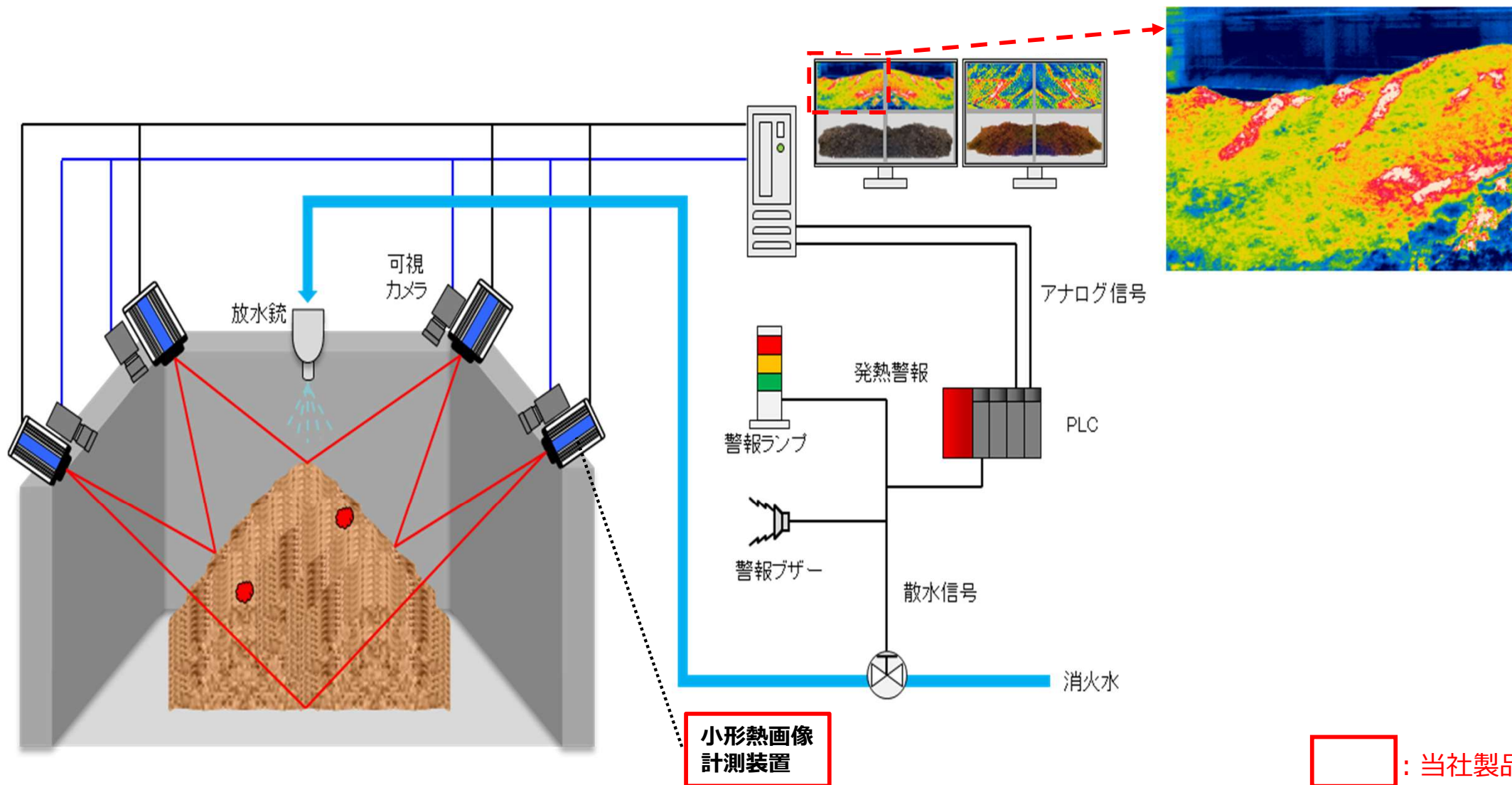
特長

- ・LH2タンク内の液体水素（ -253°C ）に直接接触して温度測定可能
- ・貼り付けタイプ製品（固定しにくい場所に使用）

: 明陽電機(株)製品

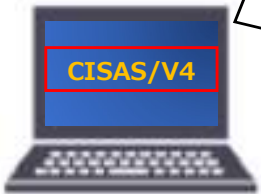
再生可能エネルギー（バイオマス発電）関連

バイオマス発電に欠かせない燃料（木質ペレット等）貯蔵庫の温度監視を行い、火災を未然に防止しています。



DX関連（製造現場の遠隔監視）

製造現場の稼働率、暑さ指数等をデジタル化し集中監視するシステムを提供しています。



IoTスマートファクトリー 株式会社チノー 藤岡事業所

更新：2023年 6月28日 14時48分 Rev. 4

3-2 記録計中央 温度 24.2℃ 湿度 44%RH WBGT 18.8℃ 露点 11.2℃	3-1 LE校正 温度 24.9℃ 湿度 37%RH WBGT 18.6℃	2-5 倉庫中央 温度 25.8℃ 湿度 43%RH WBGT 20.0℃ 露点 12.3℃	2-3 キット 温度 24.9℃ 湿度 43%RH WBGT 19.3℃ 露点 11.5℃	2-2 倉庫東 温度 25.9℃ 湿度 51%RH WBGT 21.0℃ 露点 15.0℃	1-3 3F社員食堂 温度 26.5℃ 湿度 62%RH WBGT 22.8℃
3-3 記録計南 温度 25.0℃ 湿度 41%RH WBGT 19.1℃ 露点 10.8℃	2-6 発送 温度 25.8℃ 湿度 41%RH WBGT 19.8℃ 露点 11.6℃	2-4 生産技術 温度 25.0℃ 湿度 41%RH WBGT 19.1℃	2-1 管理 温度 24.8℃ 湿度 56%RH WBGT 20.6℃	1-2 2F機器開発 温度 25.2℃ 湿度 52%RH WBGT 20.5℃	1-1 1F総務 温度 24.4℃ 湿度 65%RH WBGT 21.2℃
9-3 百草箱 温度 29.9℃ 湿度 71%RH WBGT 25.9℃ 黒球 26.7℃	9-1 1Fメカ入力 温度 25.3℃ 湿度 62%RH WBGT 21.7℃	7-1 装置製造北 温度 26.5℃ 湿度 60%RH WBGT 22.6℃	7-2 装置製造南 温度 25.5℃ 湿度 60%RH WBGT 21.7℃	6-4 計装生産北 温度 26.3℃ 湿度 56%RH WBGT 22.0℃	6-5 計装生産南 温度 26.3℃ 湿度 56%RH WBGT 22.0℃
6-2 計装調整 温度 25.8℃ 湿度 58%RH WBGT 21.7℃	6-1 板金 温度 25.9℃ 湿度 56%RH WBGT 21.6℃	5-2 トリバー調整 温度 26.9℃ 湿度 63%RH WBGT 23.3℃	5-1 計装更衣室 温度 31.6℃ 湿度 58%RH WBGT 27.0℃	5-3 加工 温度 20.4℃ 湿度 46%RH WBGT 15.7℃	4-2 守衛 温度 27.0℃ 湿度 50%RH WBGT 21.9℃
6-3 幼加事務 温度 25.6℃ 湿度 57%RH WBGT 21.4℃	4-1 評価センター 温度 26.3℃ 湿度 29%RH WBGT 18.7℃	3-3 装置製造北 温度 26.5℃ 湿度 58%RH WBGT 21.7℃	3-1 A>H< 庫東4~6 32.0℃	2-1 A>H< 庫南1~3 27.2℃	1-2 A>H< 庫北 26.5℃
9-2 装置製造東 温度 28.6℃	8-1 計装開発センター 温度 25.3℃ 湿度 62%RH WBGT 21.7℃	7-3 装置製造西 温度 26.5℃ 湿度 60%RH WBGT 22.6℃	6-4 装置製造西 温度 26.5℃ 湿度 60%RH WBGT 21.7℃	5-4 装置製造西 温度 26.5℃ 湿度 60%RH WBGT 21.7℃	4-3 装置製造西 温度 26.5℃ 湿度 60%RH WBGT 21.7℃

電力消費デマンド値
現在デマンド 311.9 kWh
予測デマンド 500.4 kWh

見える化データの共有・活用
IoT Project CHINO

熱中症予防WBGT（暑さ指数）表示
計装南側に設置した黒球の温度データと各計測点の温湿度データにより算出

WBGT警報レベル識別

危険	WBGT指数：31.0以上
厳重警戒	WBGT指数：28.0~30.9
警戒	WBGT指数：25.0~27.9
注意	WBGT指数：21.0~24.9
ほぼ安全	WBGT指数：21.0未満

温湿度警報識別

上限	温度：40℃以上、湿度：90%RH以上
下限	温度：5℃以下、湿度：5%RH以下

：当社製品

熱中症対策関連

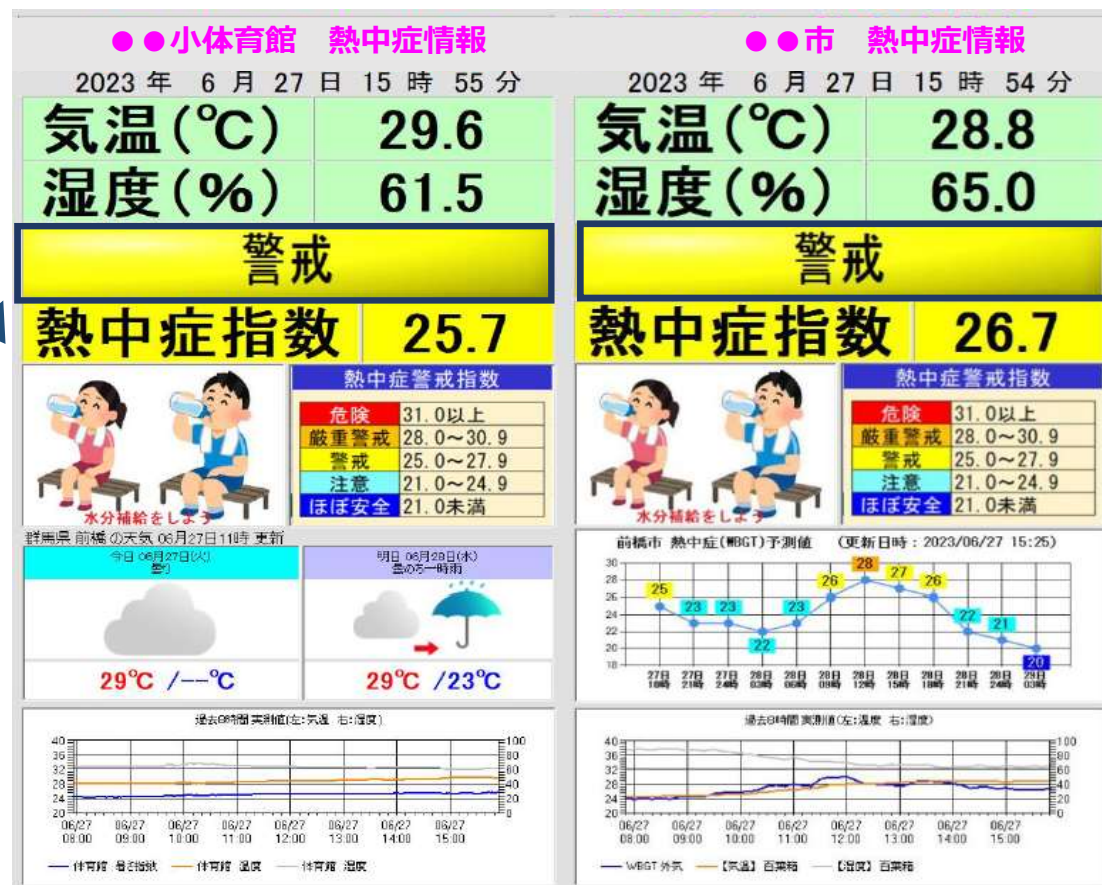
暑さ指数WBGT監視システムでは、測定した「気温・相対湿度・黒球温度」よりWBGT基準値（※）を算出して、熱中症の予防監視を行うことができます。

※WBGT基準値：暑熱環境による熱ストレスの評価を行う暑さ指数

熱中症予防WBGT（暑さ指数）表示
計装南側に設置した黒球の温度データと各計測点の温湿度データにより算出

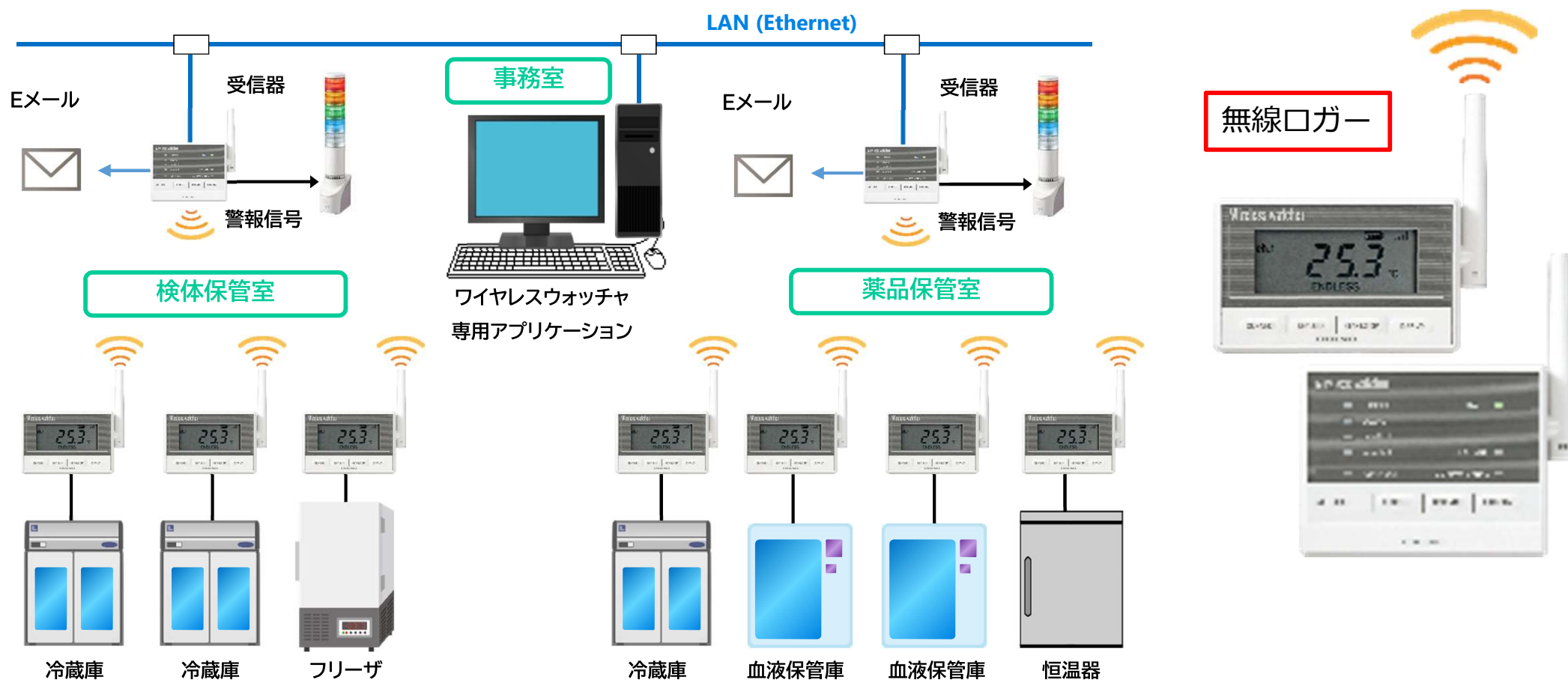
WBGT警戒レベル識別

危険	WBGT指数：31.0℃以上
嚴重警戒	WBGT指数：28.0～30.9℃
警戒	WBGT指数：25.0～27.9℃
注意	WBGT指数：21.0～24.9℃
ほぼ安全	WBGT指数：21.0℃未満



医薬品関連（血液保管庫の温度監視）

血液センター内の広範囲に点在する血液保管庫等の温度監視、データ保管を行い、**血液の安全保管**に貢献しています。



: 当社製品

》 5. 決算概要

CHINO



決算ハイライト

2023年3月期 連結業績

売上高、各利益いずれも過去最高額を達成

受注高



27,829百万円

前期比

8.9%増



売上高



23,793百万円

前期比

8.6%増



受注高は、特に脱炭素化関連分野（燃料電池評価試験装置や水素のエネルギー利用の研究・開発用途の水電解評価装置）の需要拡大により大幅に増加。

売上高は、当社顧客（自動車関連分野、電子部品関連分野等）の設備投資が堅調に推移したこと、および脱炭素化関連の設備投資拡大により増収。

<利益面>

営業利益



2,018百万円

前期比

34.6%増



経常利益



2,294百万円

前期比

31.5%増



当期純利益（親会社株主に帰属）



1,536百万円

前期比

46.2%増



利益は、増収効果および計装システムの原価率の改善等を主因とし各項目とも増益

セグメント別業績

◇セグメント別業績

(百万円)

	受注高				売上高				セグメント利益 (営業利益)			
	FY2021	FY2022	増減額	増減率 (%)	FY2021	FY2022	増減額	増減率 (%)	FY2021	FY2022	増減額	増減率 (%)
計測制御機器	8,669	8,497	▲ 172	▲ 2.0	7,965	8,617	651	8.2	1,168	1,226	58	5.0
計装システム	9,156	11,126	1,969	21.5	6,302	7,131	828	13.2	481	1,015	534	110.9
センサ	7,077	7,481	404	5.7	6,804	7,124	320	4.7	1,304	1,304	▲ 0	▲ 0.1
その他	654	724	70	10.7	836	919	83	10.0	194	232	38	19.7
全社費用									▲ 1,649	▲ 1,760	▲ 110	—
合計	25,557	27,829	2,271	8.9	21,908	23,793	1,884	8.6	1,499	2,018	518	34.6

損益状況

売上高



8,617百万円 前期比 8.2%増



セグメント利益



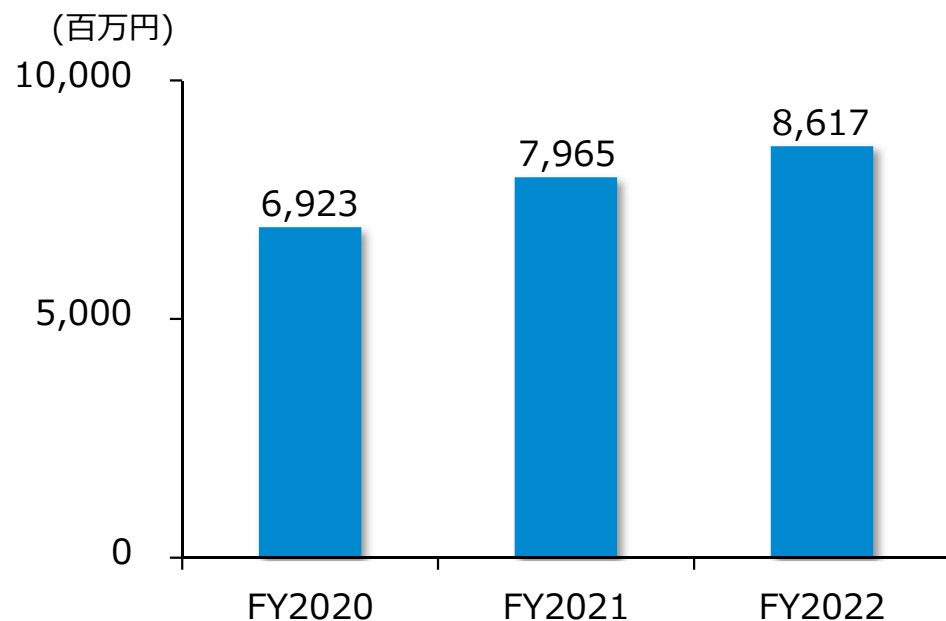
1,226百万円 前期比 5.0%増



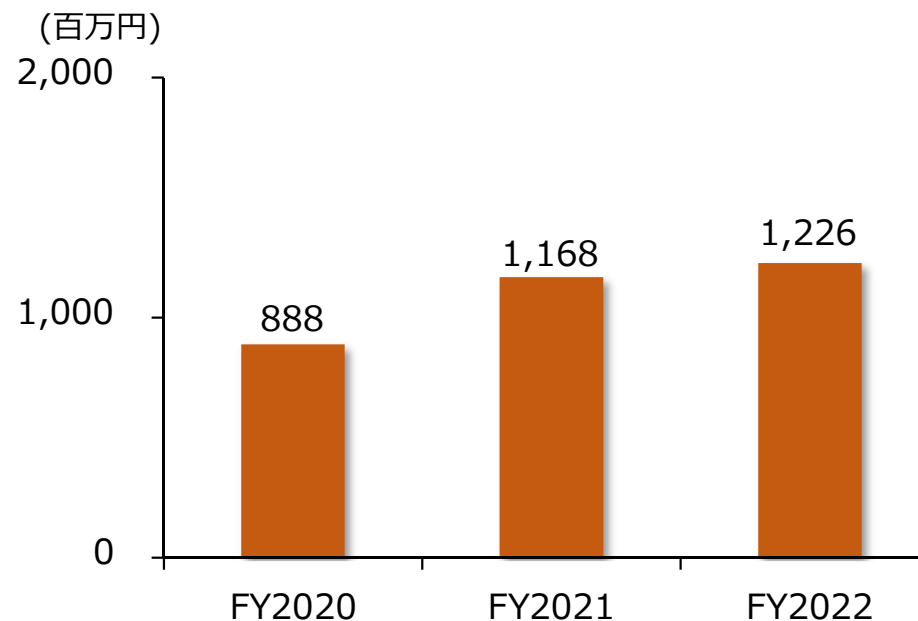
製品別状況

- 半導体・電子部品の製造設備や熱処理装置向けを中心に需要は堅調
- 海外市場（特に中国、韓国、インド等）の需要が伸長
- 前期比では、増収効果を主因とし増益

<売上高>



<セグメント利益>



損益状況

売上高



7,131百万円 前期比 13.2%増



セグメント利益



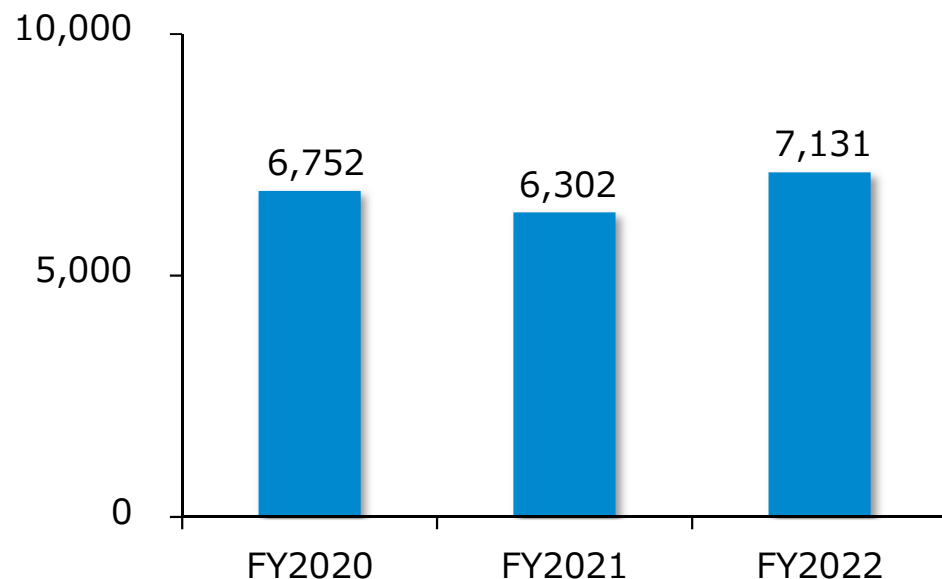
1,015百万円 前期比 110.9%増



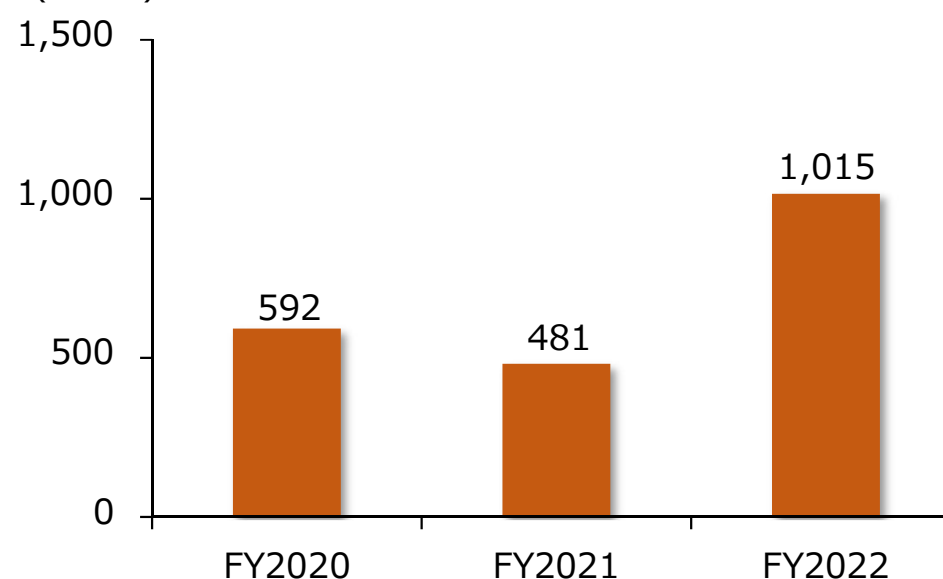
製品別状況

- 脱炭素化関連として、自動車向けなどの燃料電池評価試験装置や水素エネルギー利用の研究・開発用途の水電解評価装置の需要が拡大
- コンプレッサ性能試験装置は自然冷媒対応機器の需要により売上高が回復
- 前期比では、増収および原価率の改善等を主因とし増益

<売上高>
(百万円)



<セグメント利益>
(百万円)



損益状況

売上高



7,124百万円 前期比 4.7%増



セグメント利益



1,304百万円 前期比 0.1%減

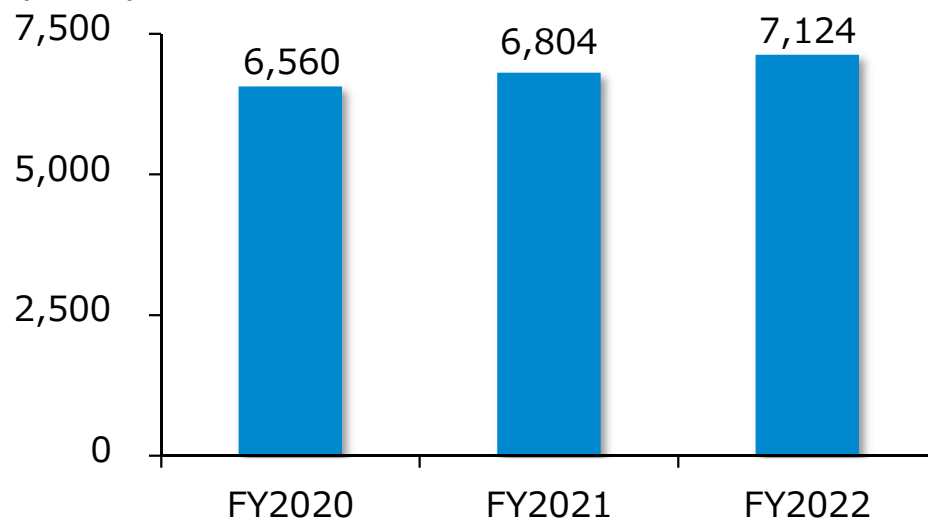


製品別状況

- 放射温度計、温度センサともに半導体関連の製造装置向けを中心に需要が好調
- AMS規格対応の温度センサの需要が堅調 ※AMS規格：航空宇宙産業における特殊工程の規格
- 増収・原価低減・販売価格見直し等で部材高騰の影響を吸収し利益は前期と同水準を確保

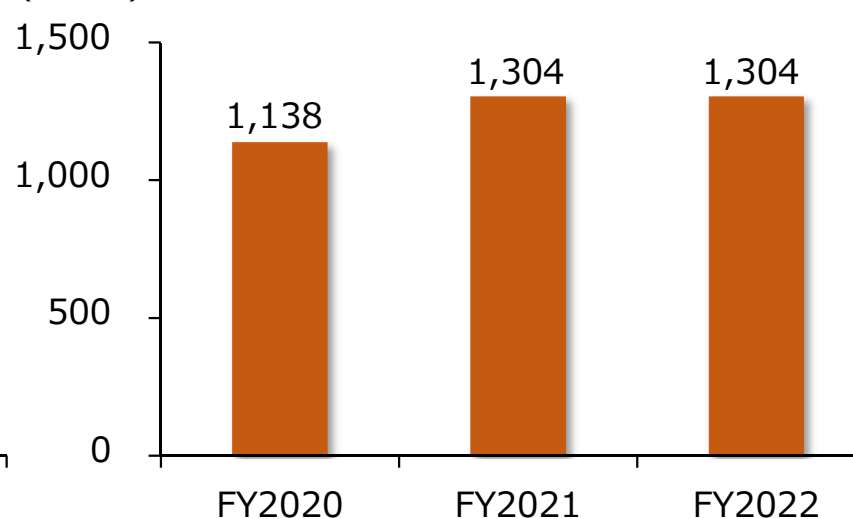
<売上高>

(百万円)



<セグメント利益>

(百万円)



中期経営計画の進捗状況（2年目）

● 中期経営計画の進捗状況（連結）

単位：百万円

項目	2021年度 実績	2022年度 実績	増減率 (%)	2026年度 KGI
売上高	21,908	23,793	8.6	30,000
営業利益	1,499	2,018	34.6	2,700
営業利益率(%)	6.8	8.5	1.7 p	9.0
海外売上高	4,077	4,852	19.0	7,000
ROE(%)	6.1	8.5	2.4 P	10.0
ROA(%) <営業利益>	4.8	6.0	1.2 P	8.0

FY2023の業績予想

部材供給不足やエネルギー価格高騰の継続、各国の金融政策変更に伴う景気の減速懸念や世界的な金融不安等により、先行きの不透明感は増しているものの、主要顧客（自動車・電子部品分野等）および脱炭素化に向けた水素関連分野での需要継続が見込まれ、FY2023の業績予想は前期比で増収増益としております。

(百万円)

項目	FY2023 業績予想 (2023年5月12日発表)	FY2022 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	26,000	23,793	2,207	9.3
営業利益	2,150	2,018	132	6.5
経常利益	2,350	2,294	56	2.4
当期純利益 (親会社株主に帰属)	1,550	1,536	14	0.9

➤ 6. 今後の方向性

CHINO



2023年度の設備投資（大企業）の状況

日銀短観（2023年6月調査 2023年7月3日発表）によると、2023年度の設備投資（大企業・全産業ベース）は前年比13.4%（製造業19.3%、非製造業10.1%）と前年比増の計画。
企業の投資意欲は底堅く、コロナ禍で抑制されていた老朽設備の維持・更新投資が着実に進んでいく見込み。

【設備投資計画額】

（前年度比・%）

		2023年度（計画）
大企業	製造業	19.3
	非製造業	10.1
	全産業	13.4

（出所）日本銀行統計より大和総研作成

水素社会実現に向けた政策「水素基本戦略」

水素基本戦略（アンモニア等を含む）の改定（2023年6月6日）

<主なポイント>

①水素社会の実現を加速化

「2040年の**水素利用量**の目標」を**1,200万トン程度**とする。

②水素生産基盤の確立

「2030年の国内外における日本企業関連の水電解装置の導入目標」を**世界の水電解装置（水素製造装置）の導入見通しの約1割**とする。

③水素等製造サプライチェーンの構築

官民合わせて15年間で15兆円の投資計画とする。

④クリーン水素への移行

「クリーン水素」の世界基準を日本がリードして策定する。

（出所：経済産業省、資源エネルギー庁 作成資料）

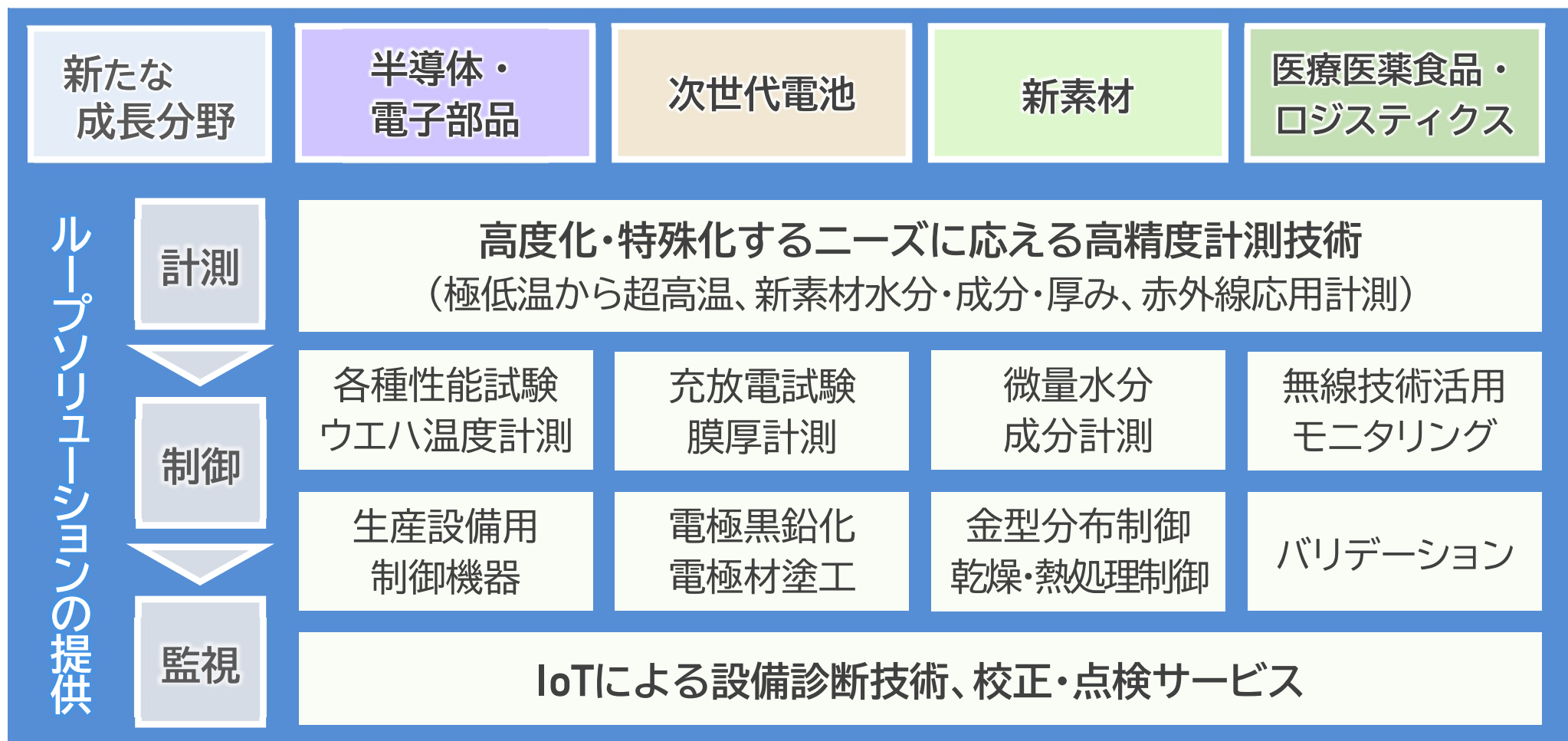
水素社会に向けた事業活動

水素社会（カーボンニュートラル2050）に向けて事業活動を行う。

水素	作る	運ぶ	貯める	使う
キーワード	グリーン・ブルー・グレー水素、人工光合成、液化水素、MCH、アンモニア合成 メタネーション、CCUS、蓄電池、水素・アンモニア燃焼、電動化エネルギー			
	電気・温度 流量・ガス濃度	温度・圧力 ガス濃度	電気・温度 ガス濃度	自動車・航空機 船舶・発電所
技術開発支援	極低温センサ ガス成分計測 触媒物性試験 プラント制御監視	クラウド活用 船用センサ 無線モニタ機器 熱画像設備診断	極低温センサ ガス成分計測 プラント制御監視 熱画像設備診断	蓄電池性能試験 FC性能試験 水素エンジン試験 プロセス用ガスセンサ
センシング技術	既存製品とセンシング技術の組合せによる新たな計測技術の創造			
製品開発	プロジェクト活動に基づく市場・顧客ニーズに対応した製品の開発			

成長市場拡大にむけて

新たな成長分野・市場に向けて**特長あるソリューション**の開発と提供を進めることで競争優位性を発揮し、事業の拡大と社会課題の解決を実現する



➤ 7. トピックス

CHINO



プライム市場の適合状況等（2023年3月末）

【プライム市場の上場維持基準の適合状況】

- プライム市場の上場基準の内、下記2項目（流通株式時価総額、1日平均売買代金）が未達でしたが、東京証券取引所より夫々「上場維持基準（分布基準）への適合状況について」「上場維持基準（売買代金基準）への適合状況について」を受領し、上場基準に適合していることを確認しました。

項目	プライム市場基準	当社の実績		適合状況 (2023年3月末)
		2021年6月末時点	2023年3月末時点 (※)	
流通株式時価総額	100億円	72.3億円	124.9億円	○
1日平均売買代金	20,000千円	19,843千円	44,672千円	○

※「1日平均売買代金」は、2022年12月末基準

健康優良企業「金の認定」を取得

当社は2022年7月に健康企業宣言を行い、健康経営の取組み項目について目標を定め、PDCAサイクルを回して実践した結果、2022年12月に従業員の健康づくりに積極的に取り組む企業として健康企業宣言東京推進協議会より、「金の認定」を取得いたしました。

<健康経営の取組み>

- ・ 従業員の健康管理に関する取組み
- ・ 職場環境の改善
- ・ 健康増進活動の実施
- ・ 健康経営に関する啓発活動の継続



「認定 協金第129号」

今後も健康経営の取組みを通じて、従業員一人ひとりが活力に満ち溢れて能力を発揮し、充実した生活を送れる環境を構築して、個人の幸福、会社の発展、社会への貢献を進めてまいります。

ビオトープが「生物多様性保全活動賞」受賞

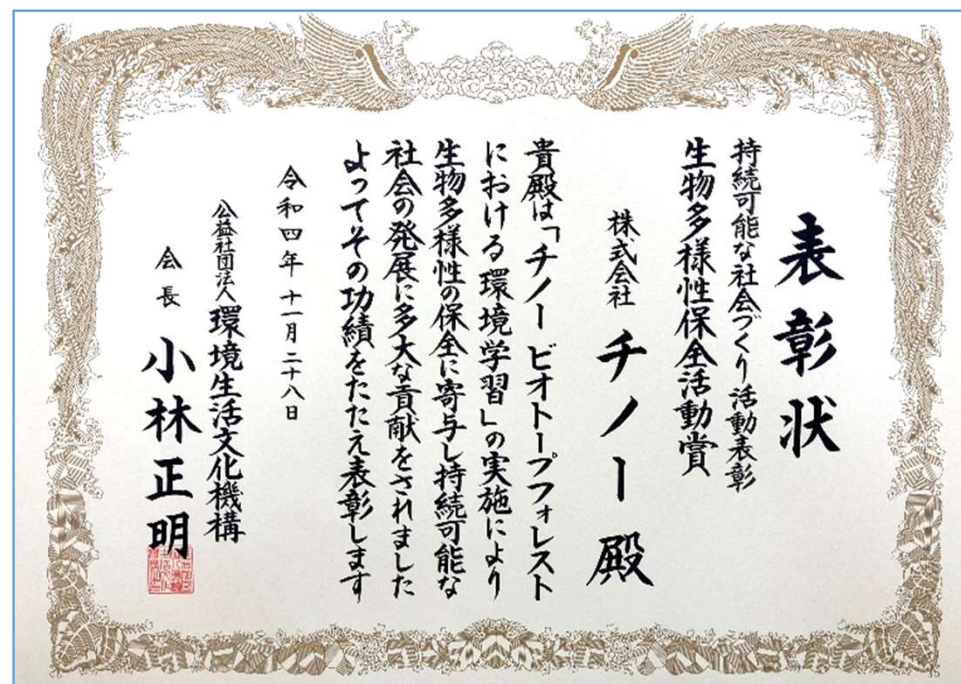
藤岡事業所内に2011年に開設しました「チノービオトープフォレスト（当資料 63 ページ参照）」での環境学習等の活動が評価され、2022年11月に公益社団法人環境生活文化機構より「**持続可能な社会づくり活動表彰（生物多様性保全活動賞）**」を受賞しました。

<取組み>

- ・ 地元小学校と連携した環境学習への積極的な取組み
（2018年に群馬県から「環境教育等における体験の機会の場合」に認定）
- ・ 四季を通じた環境学習や当社社員が地元の小学校へ出向いて開催した出前授業などの活動

<主な受賞履歴>

2013年11月	緑化優良工場等日本緑化センター会長賞
2014年 8月	関東水と緑のネットワーク拠点百選
2016年10月	緑化優良工場等関東経済産業局長賞
2018年 9月	環境教育等における体験の機会の場合
2019年10月	全国みどりの工場大賞経済産業大臣賞



耐熱形熱画像計測装置を発売

2023年1月に高温の試験環境で使用可能、温度分布をリアルタイム計測する耐熱形熱画像計測装置（CPA-L25HT）を発売しました。車載電子部品の信頼性評価基準を定めるAEC規格（※）の試験を支援します。

※AEC規格：車載電子部品評議会が定める車載用電子部品の信頼性世界基準規格

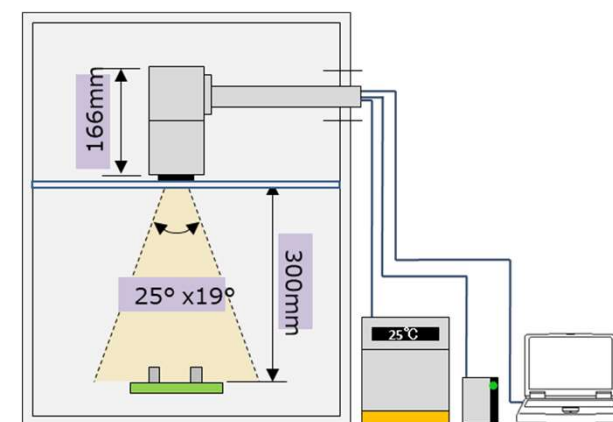
特長

- ・ 高温（最高150℃）の試験環境で使用可能
- ・ 点ではなく面で、温度変化を捉えることが可能
- ・ 電子部品の発熱状態をリアルタイムに可視化
- ・ 自動車部品や半導体等メーカーにおいて製品評価で利用



耐熱形熱画像計測装置

電子部品の発熱状態



高放射率平面黒体炉を発売

2023年3月に非接触検温などに用いられるサーモグラフィや放射温度計の測定温度の精密かつ正確な基準となる平面黒体炉（IR-R40）を国立研究開発法人産業技術総合研究所と共同開発し、発売しました。

特長

- ・ 高放射率0.995 以上を実現し、高精度な校正
- ・ 小形・軽量で持ち運びや設置が容易
- ・ 卓上設置または三脚取付けが可能
- ・ 通信インターフェイス付き化

導入例

- ・ 検温用サーモグラフィ（大型商業施設、病院、空港等に設置）への高精度な校正作業にご利用頂けます。



高放射率平面黒体炉

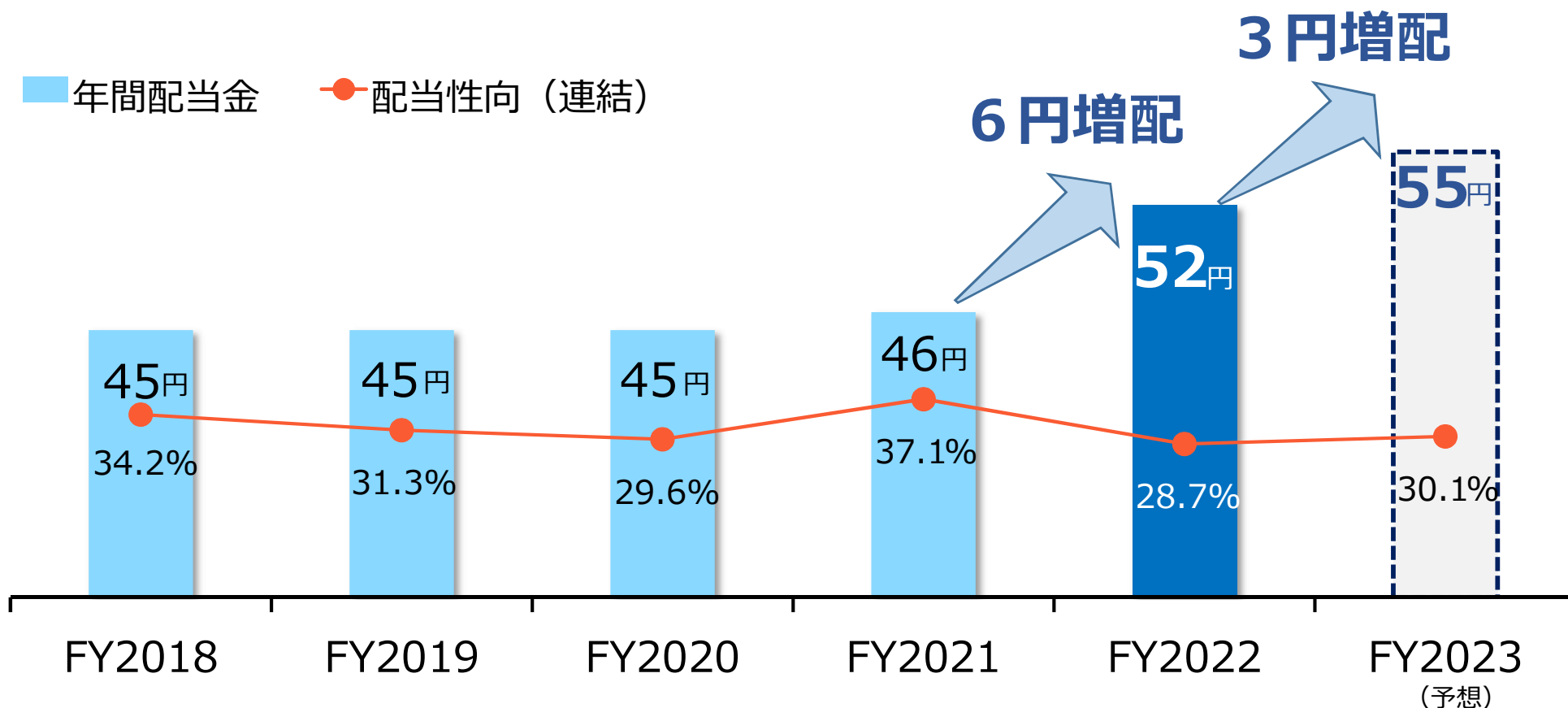
》 8. 株主還元等

CHINO

- 1) 株主還元
- 2) 株主優待制度
- 3) 株価推移（過去10年間）



- FY2022配当金 : **52円** (FY2021比 **6円増配**)
- FY2023 (予想) 配当金 : **55円** (FY2022比 **3円増配**)



※自社株式取得：2016年12月～2017年5月に120百万円（100,000株）実施
 自己株式消却：2017年7月に300,000株実施

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を一層向上させ、より多くの株主様に中長期的に保有していただくことを目的に**株主優待制度を導入**しています。

【制度の概要】

- 毎年3月末現在の**3単元（300株）以上保有の株主様が対象**となります。
- 株主様の保有株式数に応じてポイントが贈呈され（次ページ参照）、ウェブサイト「**チノー・プレミアム優待倶楽部（※）**」において食品、電化製品等5,000種類以上の商品から交換できます。

※URL：<https://chino.premium-yutaiclub.jp/>



松阪牛シャトー
ブリアン

伊勢海老
割烹料理

新潟米食べ比べ
セット

クッキー＆
チョコレート

鹿児島黒牛・
米沢牛焼肉御膳

日本酒＆梅酒

<株主優待ポイント表 (1ポイント≒1円) >

保有株式数	付与されるポイント	贈呈時期
300株～399株	4,000	毎年5月
400株～499株	8,000	
500株～599株	15,000	
600株～699株	20,000	
700株～999株	25,000	
1,000株～1,999株	30,000	
2,000株～4,999株	35,000	
5,000株以上	40,000	

株価推移（過去10年間）

（東証プライム：6850）

■ 株価：2,467円

（2023年6月30日終値）

■ 単元株式数：100株

■ 売買最低代金：246,700円

時価総額
（2023年6月30日終値）

228億円

PER 予想※1

13.50倍

PBR 実績※2

1.11倍

※1 2023年6月30日の終値及び通期の業績予想における1株当たり当期純利益を用いて算出しております。

※2 2023年6月30日の終値及び1株当たりの純資産(2023年3月31日)を用いて算出しております。



出典：Yahoo! Finance

当社ホームページのご案内

CHINO

ダウンロード 展示会情報 採用情報 English

製品/サービス ソリューション サポート技術情報 お知らせ 企業情報 IR情報 サステナビリティ お問い合わせ

Measure with Passion

温度を極める

チノグループは温度を中心とした計測・制御・監視を通して、社会の発展に貢献しています

NEWS

お知らせ

一覧を見る

2022.06.20	IR情報	招集通知記載事項の一部訂正についてを掲載しました。
2022.06.14	展示会情報	第24回インターフェックスジャパンに出展致します。
2022.06.14	IR情報	決算説明会（2022年3月期）の資料を掲載しました。
2022.06.13	サポート技術情報	ISO18436-7機械状態監視診断技術者（サーモグラフィ）の赤外線診断技術者訓練コース（カテゴリー1）を開催致します。
2022.06.10	IR情報	第86回定時株主総会招集ご通知を掲載しました。
2022.06.10	IR情報	第86回定時株主総会招集ご通知に際しての法令および定款に基づくインターネット開示事項を掲載しました。
2022.06.10	IR情報	招集通知記載事項（書面）の一部訂正についてを掲載しました。
2022.06.09	IR情報	定款の一部変更に関するお知らせを掲載しました。

当社ではホームページにて企業情報を掲載しています。

当社の事業紹介、サステナビリティに対する取組みのほか、トピックスやIR情報も随時開示しております。どうぞお気軽にアクセスしてみてください。

URL: <https://www.chino.co.jp/>



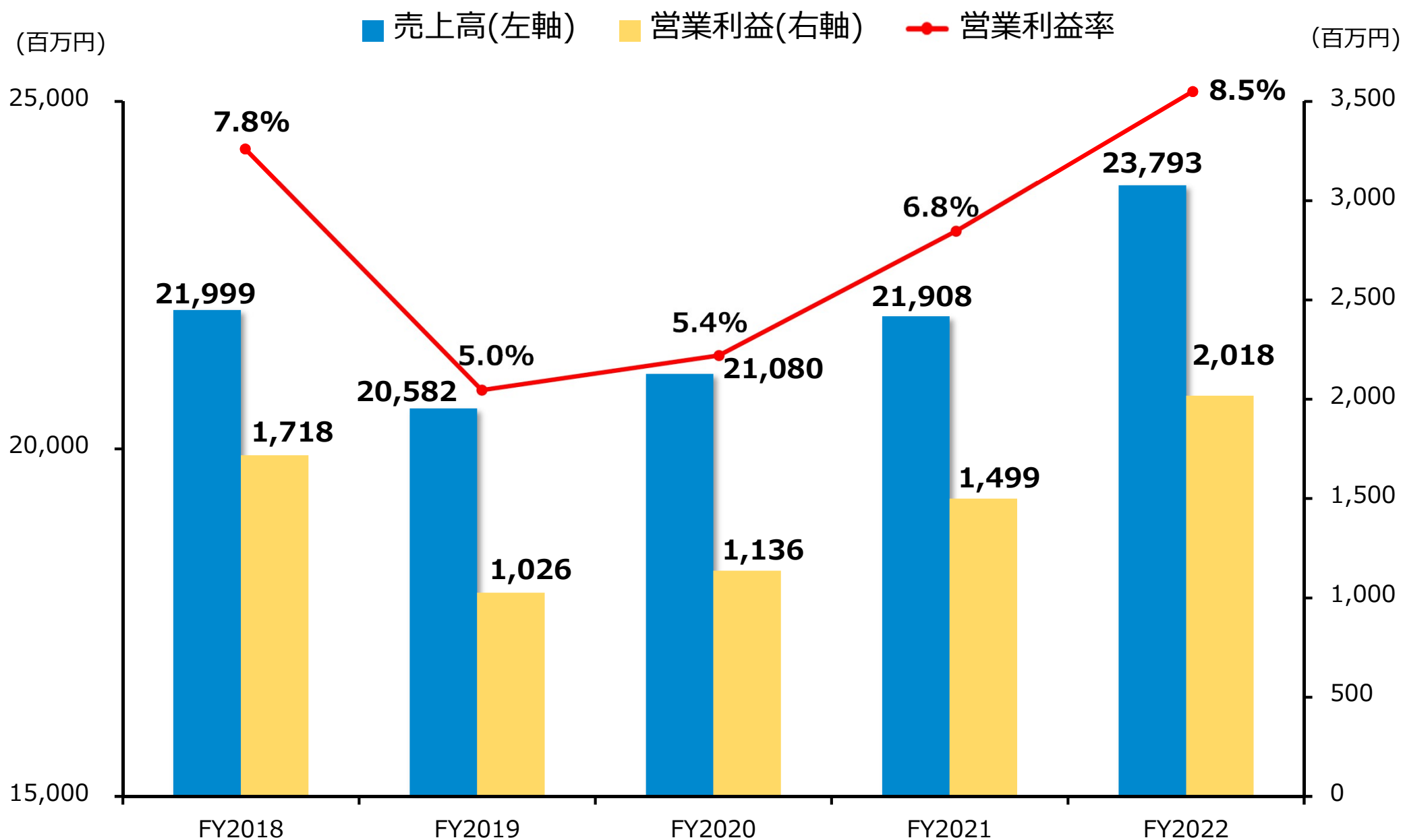
» Appendix

CHINO

- | | |
|-----------------------|-----|
| 1) 財務データ | P56 |
| 2) 脱炭素社会（水素社会）の実現に向けて | P61 |
| 3) 中期経営計画 2026 | P66 |
| 4) その他 | P70 |



連結業績推移 (売上高・営業利益)



連結貸借対照表

- 資産 棚卸資産・現預金・売上債権等が増加し、前期末比4,744百万円の増加
- 負債 長期借入金の増加等により固定負債は1,048百万円増加、仕入債務・前受金の増加等により流動負債は2,272百万円増加し、負債合計は前期末比3,320百万円の増加
- 純資産 株主資本の増加等により、前期末比1,423百万円の増加

(百万円)

科目	2022年3月末	2023年3月末	増減
流動資産	21,681	26,322	4,641
現預金	7,331	9,176	1,844
売上債権	7,595	8,281	686
棚卸資産	6,578	8,576	1,998
その他	175	287	112
固定資産	9,864	9,967	102
有形固定資産	5,566	5,578	12
無形固定資産	408	436	27
投資その他の資産	3,889	3,952	63
資産合計	31,545	36,289	4,744

科目	2022年3月末	2023年3月末	増減
流動負債	8,216	10,489	2,272
仕入債務	4,511	5,317	806
短期借入金	1,640	1,724	84
その他	2,064	3,446	1,382
固定負債	3,177	4,225	1,048
長期借入金	620	1,660	1,040
その他	2,557	2,565	8
純資産	20,150	21,574	1,423
株主資本	17,308	18,471	1,163
その他の包括利益累計額	255	312	56
非支配株主持分	2,586	2,790	203
負債純資産合計	31,545	36,289	4,744

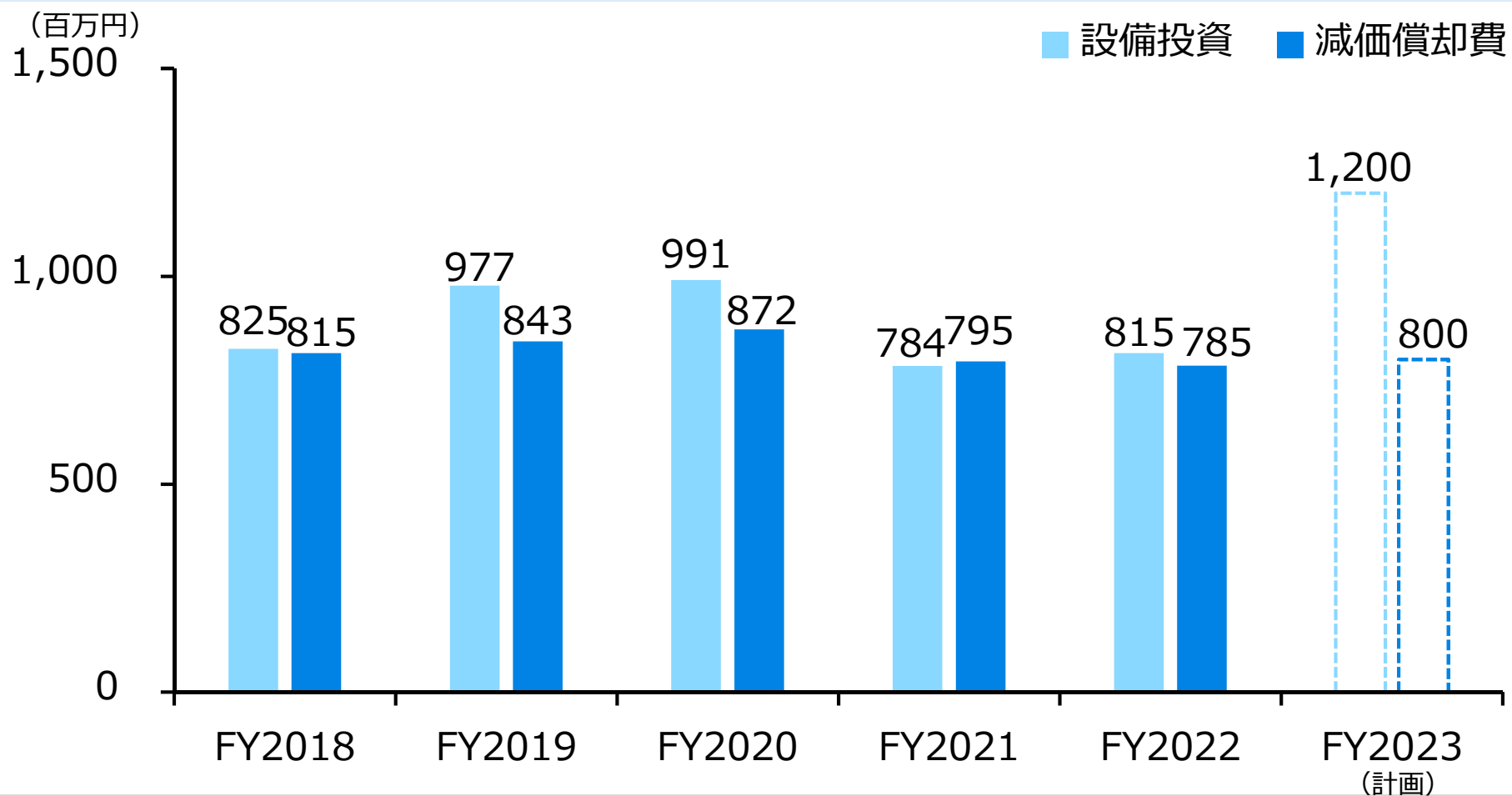
自己資本比率：2023年3月末 51.8%、2022年3月末 55.7%

設備投資／減価償却費

● 当期の設備投資は815 百万円

＜主な設備投資＞

- ・ 建物設備更新 205百万円
- ・ 生産効率化 168百万円
- ・ 研究開発 160百万円



キャッシュ・フロー

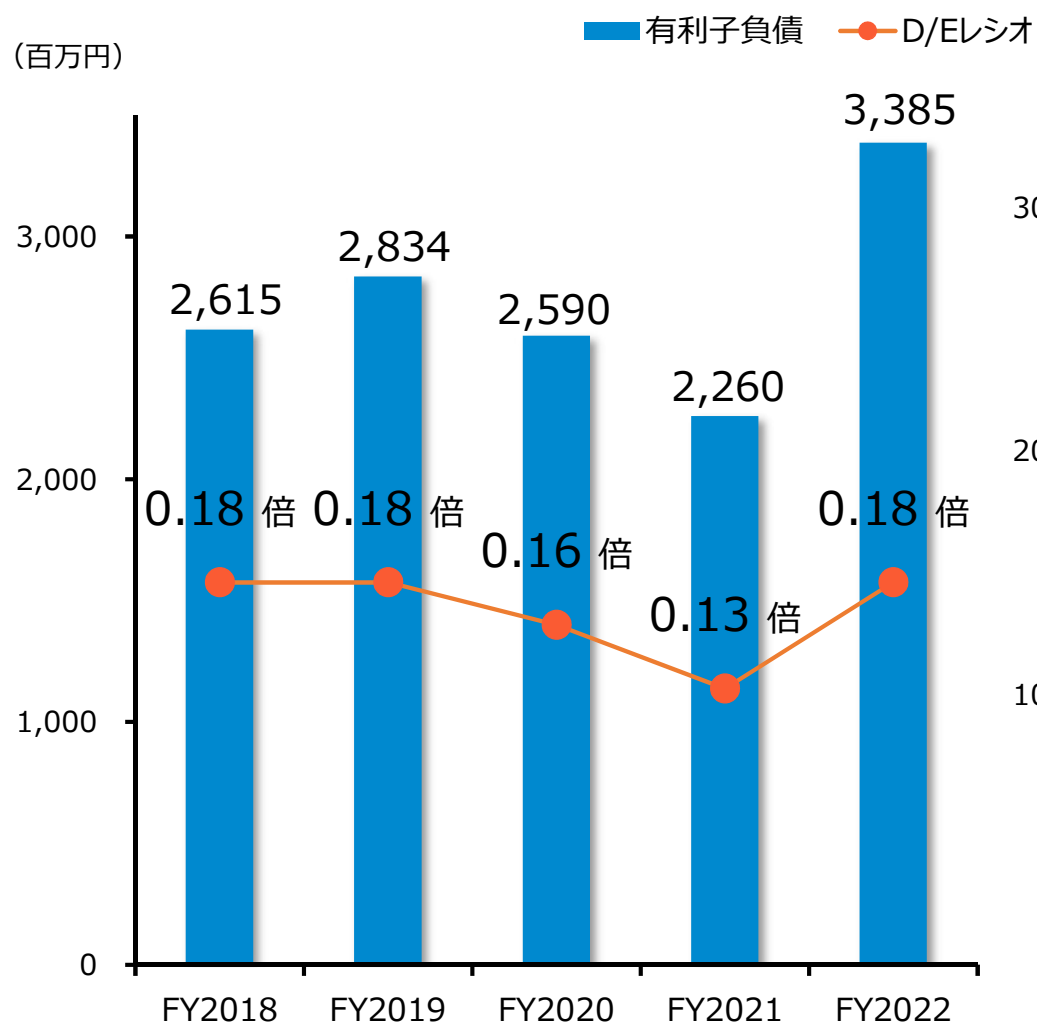
- 営業CF：部材逼迫対策のため棚卸資産が増加したものの、16.2億円（前期比▲2.6億円）
- 投資CF：前期とほぼ同水準の▲5.6億円
上記の結果、フリーCFは10.5億円（前期比▲2.5億円）
- 財務CF：資金調達15億円によりプラスとなり、6.5億円（前期比+16.3億円）

(百万円)

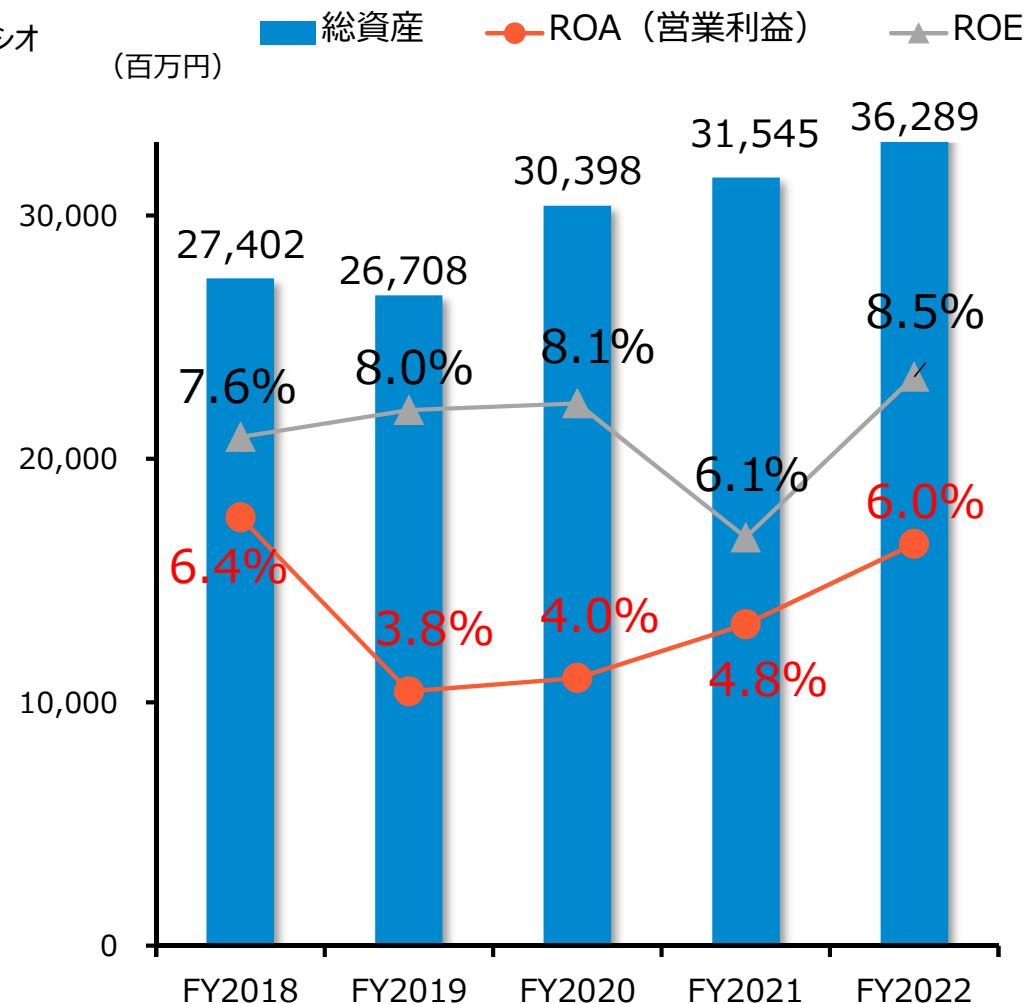
区 分	FY2021	FY2022	増減額
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,880	1,619	▲260
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲578	▲564	13
フリー・キャッシュ・フロー (I+II)	1,301	1,054	▲246
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲978	655	1,633
IV. 現金・現金同等物の換算差額	67	71	4
現金・現金同等物増減	390	1,781	1,391

財務の状況

< 有利子負債・D/Eレシオ >

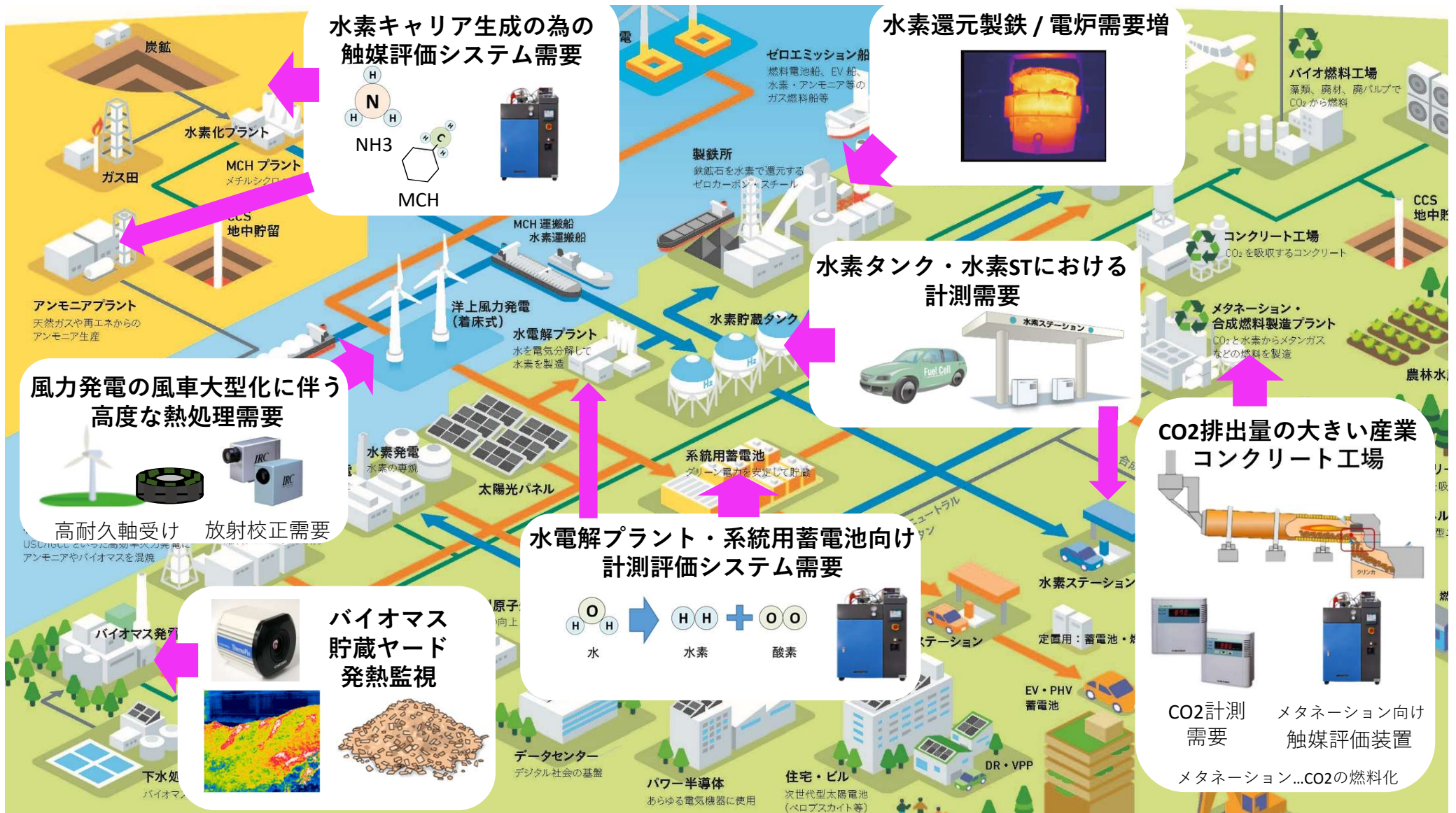


< 総資産・ROA (営業利益)・ROE >



- ✓ FY2019：明陽電機の関連会社化により営業外収入574M計上
- ✓ FY2020：明陽電機の子会社化により特別利益557M計上

事業展開への取り組みの全体像



経済産業省の元図に加図

水素社会実現に貢献

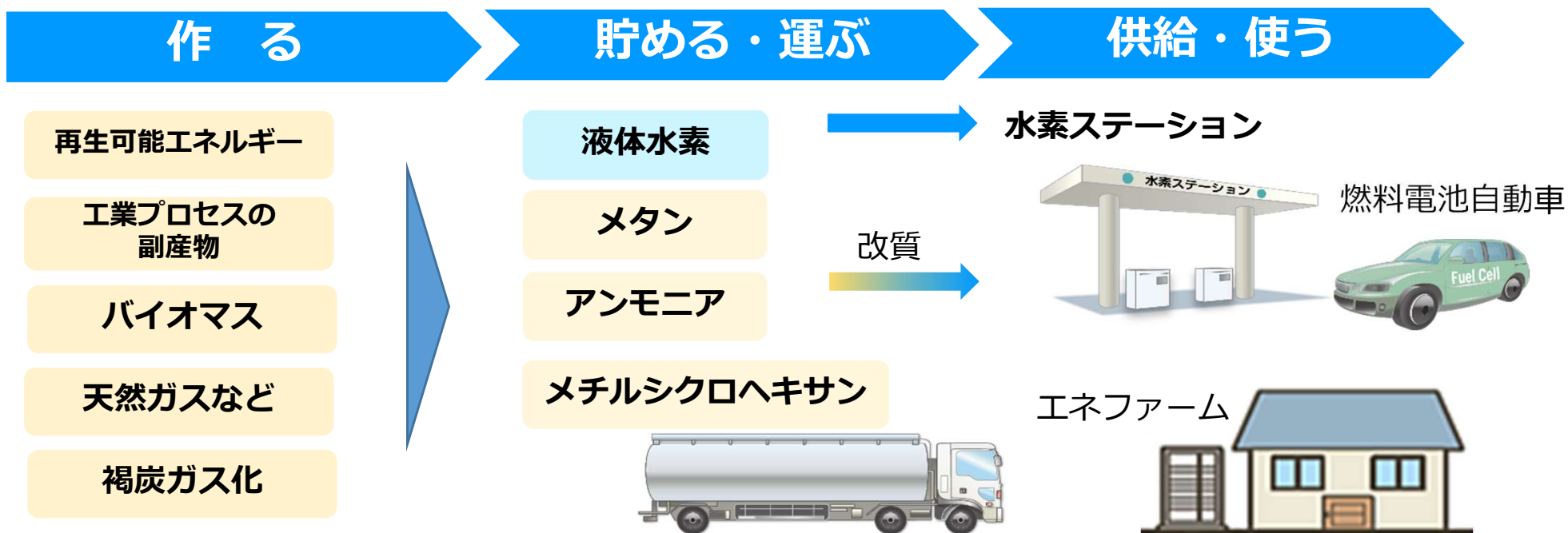
持続可能な社会を実現する水素エネルギー

水素は利用段階ではCO₂を排出しないエネルギー源であり、電力・産業・運輸などの産業分野での低炭素化に向けて活用が期待されています。水素はさまざまな資源から作り出すことができ、世界的に水素サプライチェーンの開発が進んでいます。

水素サプライチェーンの構築

水素をエネルギーとして活用するために、水素の製造・輸送・貯蔵・利用まで一貫したサプライチェーン開発の取り組みが行われています。

チノーは評価試験装置、センシング技術などを提供し水素社会実現に貢献しています。



当社の取組み（生物多様性の保全活動）

2011年に当社藤岡事業所内に環境問題に取り組むシンボルとして、地域の皆様とのコミュニケーション拠点として群馬県内の里山を再現した「チノービオトープフォレスト」を整備致しました。

群馬大学と共同でモニタリング調査を実施し、希少生物の保護に取り組み、生物多様性の保全に努めています。

また、近隣の小学生には環境学習や水質調査実験等による環境保全の大切さを学ぶ機会の提供や、さらには地域社会とのコミュニケーションの場としても活用しています。

ビオトープ

地域の生態系や野生動植物を保全することを目的に、人工的に復元した場所

藤岡市の天然記念物 ヤリタナゴ
(ビオトープ内にて保護中)



チノービオトープフォレスト



当社の取組み（気候変動リスクへの対応） ①

■ TCFD提言への賛同

2022年5月に当社グループは気候変動関連情報開示の重要性を踏まえて**TCFD提言への賛同を表明**しています。今後、これを契機に気候変動がもたらす事業へのリスクと機会についての分析と対応を一層強化してまいります。

■ 主要なリスク・機会及び当社の対応方針

主要なリスク・機会		当社の対応方針	事業・財務への影響度
リスク	・炭素税等の導入および価格上昇による製造コスト増	・カーボンプライシング政策動向のモニタリング ・再生可能エネルギーの導入・拡充 ・省エネ効率の高い製造設備への更新	大
	・GHG排出量削減の政策強化		
	・環境配慮型原材料・資材への切替による調達コスト増	・環境配慮設計および生産工程の整備による省エネ・低コスト化	中
	・排出量削減の取組遅延によるステークホルダーからの信頼低下	・ロードマップに沿ったカーボンニュートラルの推進	小
	・異常気象の激甚化による操業停止や原材料供給網の寸断	・災害発生に備えたBCP対策の高度化 ・調達・ロジスティクス対策の強化	大
機会	・水素社会の実現に向けた顧客企業の技術・製品開発の進展	・水素利活用技術の高度化（製造、貯蔵、運搬、使用）に資する技術・ソリューションの開発と新市場の開拓	大
	・モビリティ関連産業における電動化の進行	・顧客ニーズを捉えた専用製品・システムの開発	大
	・再生可能エネルギーの主力化の進行	・関連技術・ソリューションの開発と新市場開拓	中
	・省エネニーズの増大		

当社の取組み（気候変動リスクへの対応） ②

■ 事業活動のカーボンニュートラルに向けたロードマップ^o

	～2022年度	2026年度	2030年度	2040年度
目 標		Scope1,2のGHG排出量 実質0へ (一部カーボンオフセット利用)		"カーボンニュートラル" Scope1,2のGHG排出量 完全0へ
	Scope1,2排出量 70%削減 (2020年度比)	Scope1,2 排出量 90%削減 (2020年度比)	Scope1,2排出量 93%削減 (2020年度比)	Scope1,2 排出量 100%削減 (2020年度比)

	◆ 事業活動における購入電力を、再生可能エネルギーに転換			
具 体 的 取 組 み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 当社生産事業所の電力調達を再生可能エネルギー化(完了) <p>2021年10月 山形事業所 2021年11月 久喜事業所・本社 2022年 7月 藤岡事業所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 当社の電力調達を100%再生可能エネルギー化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内グループ会社の電力調達を100%再生可能エネルギー化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Scope1,2すべてを再生可能エネルギーより調達
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Scope3（サプライチェーン排出量）の集計と目標設定および、排出削減 ◆ 省エネの推進、生産設備のエネルギー効率向上 ◆ 当社事業所（山形事業所、藤岡事業所）への太陽光発電所設置 			

● 2020年度 排出実績値

[Scope1 : 261t-CO2] [Scope2 : 2,449t-CO2]

Scope1 : 自社での燃料使用による温室効果ガスの直接排出量

Scope2 : 自社が購入した電力や熱の使用による温室効果ガスの間接排出量

中期経営計画 2026

(2021年度～2026年度)

中期経営計画（戦略の全体像）

持続的な
成長軌道の構築

+

中長期的な
企業価値の向上

脱炭素社会
づくりへの貢献

4つの
基本戦略

成長分野の更なる開拓・拡大

Solution

新たな成長分野に向けて、グループシナジーを創出し
特長あるソリューションの開発と提供を加速させる

コア事業の高度化と価値創造

Integration

独自技術とサービスとのインテグレーションにより
コア事業を高度化し、お客様と新しい価値を創造する

海外事業の基盤強化と拡大

Relationship

国内外事業のリレーションシップ強化と地域別戦略の
展開によりグループ収益力を高める

経営基盤の強靱化

Innovation & Speed

企業価値の創造とイノベーション、スピード経営を支える
人財・組織・ICT・ガバナンス・財務体質の強靱化を進める

サステナビリティ経営

ESG課題への対応

SDGsへの貢献

中期経営計画（サステナビリティ経営の推進 -SDGs達成への貢献-）

計測・制御・監視技術の限界に挑戦

■ 脱炭素社会実現に向けた貢献

- 環境問題解決型製品・ソリューションの提供
- 温室効果ガス/CO2の排出削減
- 資源・エネルギーの効率的利用



■ 人権尊重への体系的な取組み

■ 魅力ある職場環境の整備

- ダイバーシティ&インクルージョン/人財育成

- 働き方改革/健康経営

■ サプライチェーンマネジメントの強化



■ UX(ユーザーエクスペリエンス)を高める製品・ソリューションの創出

- 特長ある独自技術の深耕
- 品質・安全性の確保と安定的供給
- 製品・サービスに関する適切な情報提供



■ ガバナンスの高度化

- コーポレートガバナンス体制の強化
- リスクマネジメントとコンプライアンスの徹底

■ ステークホルダー・エンゲージメントの充実



●本ページは2022年4月1日、最新の内容に更新しました。



中期経営計画（数値目標（KGI））

2026年度KGI（連結）

■ 売上高	300億円
■ 営業利益	27億円
営業利益率	9%
■ 海外売上高	70億円
■ ROE	10%
■ ROA(営業利益)	8%

企業価値向上
持続的成長

2026
創立90周年

Phase 2
成長の加速

2023
Phase 1

FY2020

成長の基礎固め

「チノーレポート2022」

2022年10月に財務・非財務情報を統合的にご報告する「チノーレポート2022」を発行しました。

本レポートは、**当社グループの事業活動および中長期的な経営の取組み**についてより一層深くご理解いただくことを目的として作成した年次報告書になります。是非、ご一読お願い致します。

(URL : https://www.chino.co.jp/csr/csr_report/)



注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、当社およびグループ各社が現時点で入手可能な情報に基づいており、この中には潜在的なリスクや不確定要素も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向等により、本資料における業績見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

CHINO